

2026 年 3 月時点の北九州市の文化芸術・スポーツに対する市民意識 ～文化芸術の鑑賞機会に対する意識等に注目して～

南 博

1. 本調査研究の背景と目的

過去の一連の南による地域課題研究でまとめているように、北九州市立大学地域戦略研究所の地域課題研究では、2009 年度以降、スポーツイベント（みるスポーツ）等に関する市民意識を把握し、地域活性化に資するスポーツイベント等のあり方などに関する検討に継続的に取り組み、2023 年度からは文化芸術に対する市民意識の把握も行っている。この一連の調査研究は、南（2025）等で記しているとおおり、北九州市をホームタウンとするギラヴァンツ北九州が J リーグに加盟した 2010 年以降のほぼ毎年、J リーグ開幕直前または直後の時期（2 月または 3 月）に、北九州市民を対象としたインターネット調査として実施している。

南（2025）等で記しているとおおり、市民意識を定点観測的に把握し変化をみることは、地域における各種取組を客観的に評価するうえで、あるいは今後の地域での取り組みを検討していくうえで重要な基礎資料となり得る。そこで本調査研究では、例年と同様、北九州市における「みるスポーツ」、また近年取り組みの充実が進んでいるエンターテインメント関連も含んだ文化芸術の動向に対する市民意識の現状を把握し、地域における取り組みの成果と課題等を考察し、今後の政策提言のための基礎資料を得ることを目的とする。特に、2025 年度から 5 年間に計画期間とした「北九州市文化芸術推進プラン」に基づく取り組みがスタートしたことを踏まえ、北九州市民の文化芸術の鑑賞機会に対する意識等に関する考察も行うこととする。

なお、本稿は南（2025）等と同様、その結果を速報的にとりまとめ、経年比較を加えて考察したものである。なお、本稿は前述のとおり一連の調査研究（定点調査）の一部となるため、比較検討の観点から本稿全般にわたり過去の一連の調査結果を踏まえた記述となっており、特に南（2016）、南（2017）、南（2018）、南（2019）、南（2020）、南（2021）、南（2022a）、南（2023）、南（2024）、南（2025）の記述をもとに加筆修正を行った表現および内容で構成している。

2. 調査方法および実施概要

（1）方法と実施概要

過去の一連の市民意識調査においては、北九州市に居住する 18 歳以上の市民のうち、民間調査会社が管理・利用する調査モニターへ登録している市民を対象としたインターネット調査を用いてきた。経年変化の把握の観点から、2025 年度の市民意識調査においても同様の手法で実施することとした。

実施時期についてもこれまでと同様、3月初旬とした。なお、Jリーグは2026年からシーズン時期を変更し、これまで単年で概ね2月下旬頃開始、12月上旬頃終了であったスケジュールを、8月開始、翌年5月終了という形にシーズン移行した。これに伴い、2026年においては上半期（2～6月）に「明治安田Jリーグ百年構想リーグ」という特別大会を開催することとなった。この特別大会はリーグ構成が通常のリーグ戦と異なることや、昇降格がないこと等の運用となる。一方で、一般的な市民の立場からみると、これまでどおり2月にギラヴァンツ北九州の試合がスタートすることには変わりはなく、また、本市民意識調査がスポーツ関係のみならず文化芸術関係、イベント関係の設問を拡充していること等を勘案し、過去の調査との比較の行いやすさ等の観点からこれまでと同時期に調査を行うこととした。なお、便宜上、本調査については調査終了時点の日付に基づき「2026年3月調査」と本稿においては称する。調査実施概要を表1に示す。

また、地域課題研究において筆者が実施してきた過去の一連の調査実施概要を表2に示す。各年とも同様の手法・時期に実施しており、これらを比較することは妥当と考える。

表1 2026年3月実施の市民意識調査の実施概要

調査対象	北九州市に居住する18歳以上の市民のうち、民間調査会社が管理・利用する調査モニターへ登録している市民
調査方法	インターネット調査（調査協力依頼・回収は民間調査会社に委託）
実施期間	2026年3月3日（火）～3月5日（木） ※2026年のJリーグ特別大会のギラヴァンツ北九州の北九州での開幕戦：2026年2月7日（土）→2025年までのレギュラーシーズン開幕より2週間程度早い
有効回収数	530 サンプル ※2025年3月調査と同数

表2 過去の一連の調査実施概要

年（年度とは異なる）	調査対象	調査方法	実施期間		有効回収数
				※ギラヴァンツ開幕戦	
2010年	北九州市に居住する18歳以上の市民のうち、民間調査会社が管理・利用する調査モニターへ登録している市民	インターネット調査	2010年2月26日（金）～3月2日（火）	同年3月7日（日）	2,486
2012年			2012年2月24日（金）～29日（水）	同年3月4日（日）	1,818
2013年			2013年3月25日（月）～27日（水）	同年3月3日（日）	1,468
2015年			2015年3月4日（水）～6日（金）	同年3月8日（日）	1,844
2016年			2016年3月15日（火）～17日（木）	同年2月28日（日）	1,087
2017年			2017年3月24日（金）～27日（月）	同年3月12日（日）	1,088
2018年			2018年3月16日（金）～19日（月）	同年3月17日（土）	1,062
2019年			2019年3月6日（水）～8日（金）	同年3月10日（日）	1,045
2020年			2020年3月9日（月）～11日（水）	同年2月23日（日）	526
2021年			2021年3月5日（金）～8日（月）	同年2月27日（土）	1,030
2022年			2022年3月2日（水）～4日（金）	同年3月13日（日）	1,035
2023年			2023年2月28日（火）～3月2日（木）	同年3月5日（日）	1,049
2024年			2024年3月7日（木）～11日（月）	同年2月24日（土）	1,087
2025年			2025年3月4日（火）～6日（木）	同年2月22日（土）	530
2026年	2026年3月3日（火）～5日（木）	同年2月7日（土）	530		

※2011年、2014年は調査を実施していない。

(2) 調査項目

2026年3月調査の調査項目を表3に示す。2025年3月調査と比較すると、3問の入替を行った。新たに追加した設問は、いずれも2025年度の北九州市におけるスポーツ、文化芸術関連の動向を踏まえて市民意識を把握すべきと考えた設問である。具体的には、「ギラヴァンツ北九州が社会課題解決に向けた活動に取り組むことへの評価」、「『アーバンスポーツ』の聖地を目指す取り組みへの評価」、「第3回北九州国際映画祭開催の認知度」を追加した。

表3 2026年3月調査における調査項目一覧

分類	番号	設問	備考①	備考②
基本属性	Q1-1	性別		
	Q1-2	年齢		
	Q2	居住する行政区		
北九州スタジアム(ミクニワールドスタジアム北九州、ミクスタ)について	Q3	ミクスタ来場経験の有無(2017年2月～現在)		経年比較可
	Q4	ミクスタへの満足度[立地場所、施設・設備の快適さ、施設管理状況、使われ方、総合的な評価]※5段階評価	Q3「行ったことがある」対象	経年比較可
	Q5	ミクスタで開かれるイベント種類の希望		経年比較可
	Q6	今後のミクスタへの来場意向		経年比較可
サッカーJリーグについて	Q7	応援しているJリーグクラブ		経年比較可
	Q8	ギラヴァンツ(前身のニューウェーブ含む)試合のスタジアム観戦経験の有無	Q7「ギラヴァンツを応援」対象	経年比較可(2024調査以降)
	Q9	今後のギラヴァンツの試合をミクスタで観戦する意向		経年比較可
	Q10	観戦するつもりがない理由	Q9「観戦しない」対象	経年比較可
	Q11	ギラヴァンツ北九州が社会課題解決に向けた活動に取り組むことへの評価		今回新設
	Q12	ギラヴァンツ北九州に対する愛着の有無		経年比較可
スポーツ関連のその他のことについて	Q13	北九州市等で活動しているスポーツチームの認知・観戦状況[福岡ソフトバンクホークス、北九州下関フェニックス、ギラヴァンツ北九州、ボルクパレット北九州、タカギ北九州ウォーターウェーブ]		経年比較可
	Q14	「アーバンスポーツ」の聖地を目指す取り組みへの評価		今回新設
文化芸術や各種イベントのことについて	Q15	第3回北九州国際映画祭開催の認知度		今回新設
	Q16	前年に直接鑑賞した文化芸術分野	文化庁アンケートを参考	経年比較可(2024調査以降)
	Q17	文化芸術の直接鑑賞の場所	Q16「直接鑑賞あり」対象	経年比較可(2024調査以降)
	Q18	北九州市の文化的な環境への満足度	文化庁アンケートを参考	経年比較可(2024調査以降)
	Q19	今後、北九州市内で直接鑑賞できる機会が増えてほしいとあなたが思う文化芸術分野	文化庁アンケートを参考	経年比較可(2024調査以降)
	Q20	文化芸術関連のイベントを市役所が関わる形で開催することの重要性		経年比較可(2024調査以降)

※2025年調査にはあったが2026年調査では削除した設問

北九州市等で活動しているスポーツチームの観戦意向[福岡ソフトバンクホークス、北九州下関フェニックス、ギラヴァンツ北九州、ボルクパレット北九州、タカギ北九州ウォーターウェーブ]
国際スポーツ大会、外国選手団キャンプ誘致の意義
北九州市に対する愛着の有無

(3) 回答者の属性

性別については男性 53.4%であり、やや男性の方が多くなっている。年齢は40歳代以上が多くなっており、30歳代以下は8%にとどまる(表4)。居住する行政区については実際の行政区別人口構成比と近似している(表5)。

これらの傾向は過年度と概ね一致しており、一連の調査と比較を行う上での支障はないと考える。若い世代のサンプル数が少ない点は今後の調査実施における課題である。

表4 回答者の性別・年齢

性別 年齢	男性	女性	回答 しない	回答者計 (n=530)
18-29歳	0.8%	1.5%	0.0%	2.3%
30-39歳	2.6%	3.0%	0.0%	5.7%
40-49歳	6.8%	10.0%	0.0%	16.8%
50-59歳	14.7%	12.3%	0.2%	27.2%
60-69歳	14.9%	12.1%	0.0%	27.0%
70歳以上	13.6%	7.4%	0.2%	21.1%
回答者計 (n=530)	53.4%	46.2%	0.4%	100.0%

表5 回答者の居住する行政区

	回答者数 (n=530)	構成比	(参考)R2国調 人口構成比
門司区	52	9.8%	10.0%
小倉北区	104	19.6%	19.5%
小倉南区	117	22.1%	22.3%
若松区	49	9.2%	8.6%
八幡東区	37	7.0%	6.9%
八幡西区	137	25.8%	26.6%
戸畑区	34	6.4%	6.1%
合計	530	100.0%	100.0%

3. 2026年3月調査の結果および経年比較と考察

(1) ミクニワールドスタジアム北九州（ミクスタ）について

① ミクスタ北九州来場経験の有無

「あなたは、2017年2月から2026年（今年）2月までの間に、北九州スタジアム（ミクスタ）に行ったことがありますか。スポーツ観戦以外で行ったことがある人も『行ったことがある』と回答してください。（回答は1つ）」として、ミクスタ来場経験の有無を尋ねた。供用開始から約9年間にミクスタに行ったことがある人は回答者全体の22.3%となっている（図1）。経年比較すると「行ったことがある」市民は2022年頃までは年々増加傾向にあったが、2023年以降は横ばい状態となっている可能性がある（図2）。

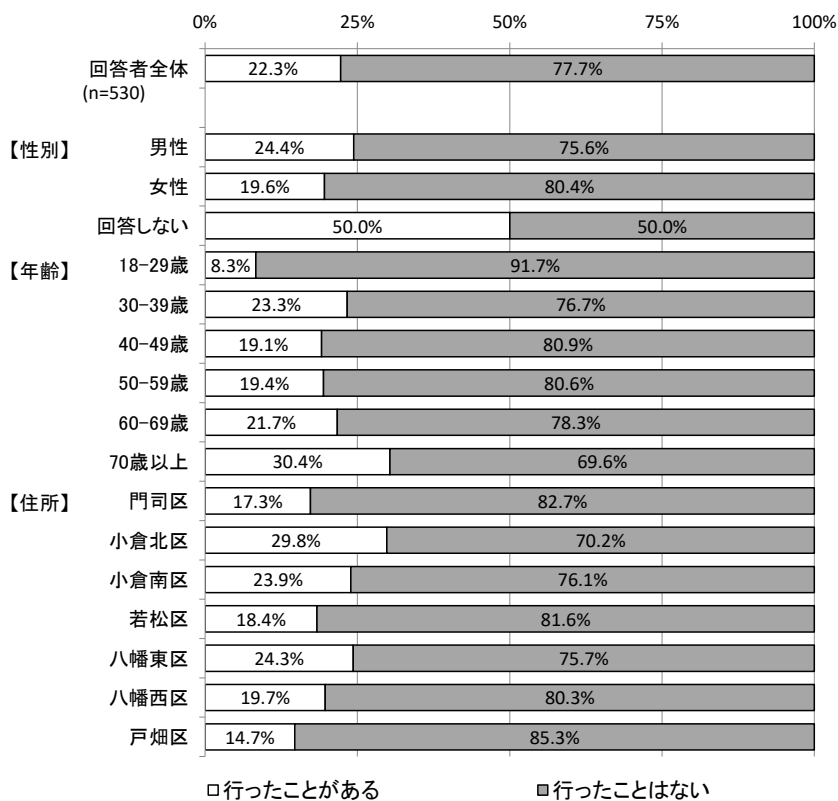


図1 ミクスタ来場経験の有無（2026年3月調査）

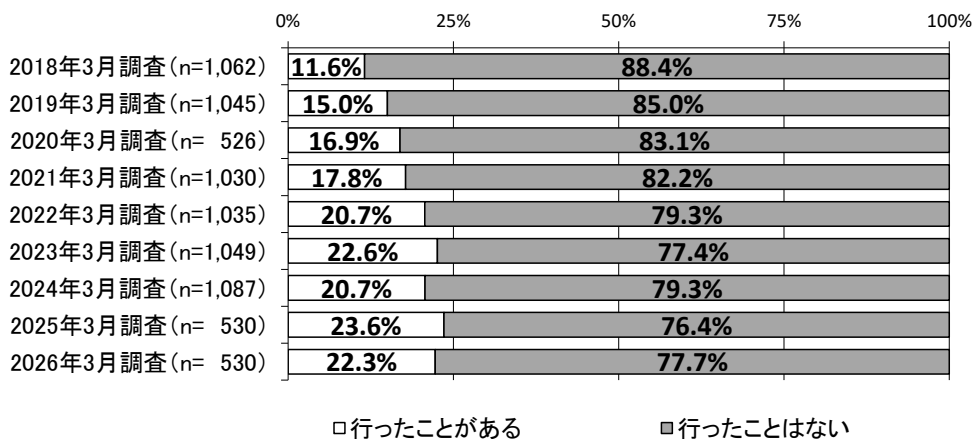


図 2 ミクスタ来場経験（経年比較）

② ミクスタへの満足度

①でミクスタに「行ったことがある」と回答した人（n=118）に対し、「北九州スタジアム（ミクスタ）への満足度について、最もあてはまる気持ちを一つ選んでください。」として、立地場所、施設・設備の快適さ、施設管理状況、使われ方、総合的な評価の5項目に関し、5段階評価でミクスタへの満足度を尋ねた。

2026年3月調査においては、「大変満足」および「やや満足」という肯定的な回答が各項目とも50%以上となっている（図3）。もっとも肯定的な回答が少ない「使われ方」についても、2025年から引き続き計50%超となっている。ミクスタを訪れたことがある市民からのミクスタの施設面への評価は比較的高いと言えよう。2024年まで例年40%台であった「使われ方」の肯定的回答が2年連続で50%を上回った点については、ミクスタの有効活用への理解が進んだ可能性がある。

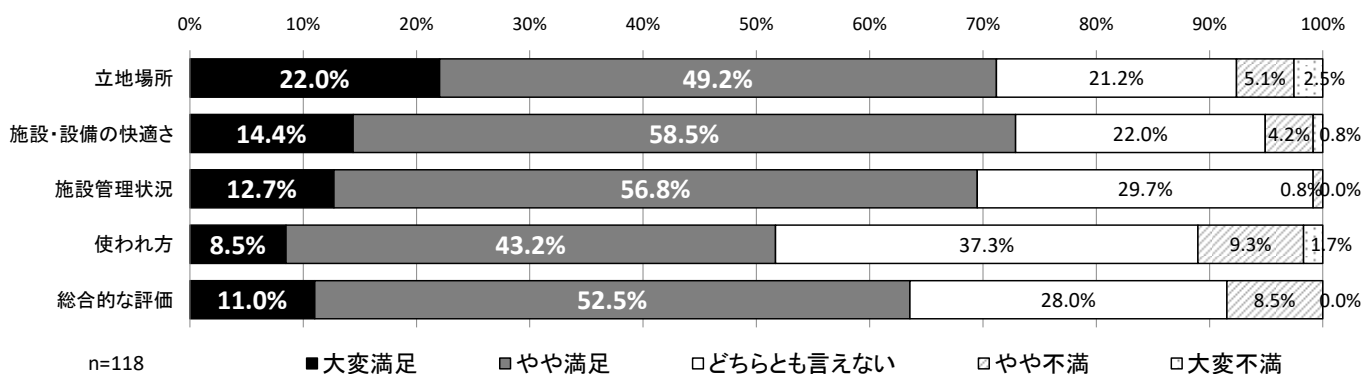


図 3 ミクスタへの満足度（来場経験ありの回答者対象）（2026年3月調査）

この評価についてスコア化²⁾して経年変化をみると、毎年、概ね一致した評価傾向となっているが、上述のとおり2026年3月調査では「使われ方」が前年と同様高い水準となっている。また、「総合的な評価」が2021年3月調査に次ぐ過去2番目に高いスコアとなっている（図4）。

供用開始から9年経過してもスタジアムに対する高い満足度を維持していると言え、ミ

クスタが適切に活用されており、さらに所有者（北九州市）や指定管理者による適切な管理運営が行われていることが、過年度調査と同様 2026 年 3 月調査においても確認された。

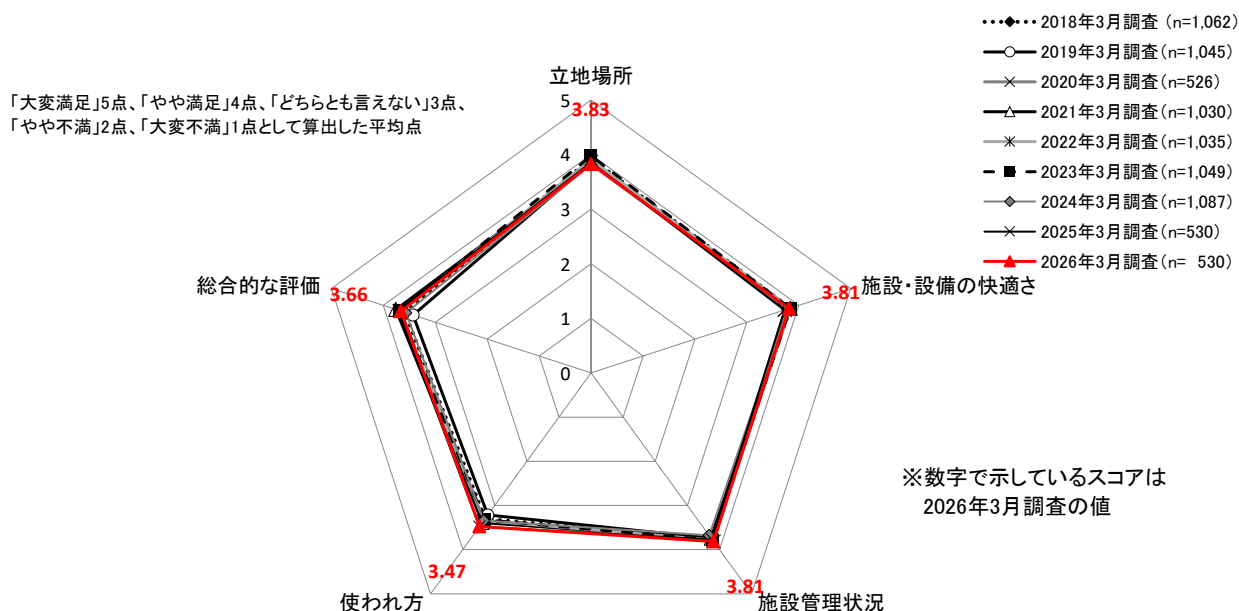


図 4 ミクスタへの満足度（来場経験ありの回答者対象）（経年比較）

③ ミクスタで開かれるイベント種類の希望

回答者全体に対し、「あなたは北九州スタジアム（ミクスタ）で開かれるイベント等について、どのような内容のものであれば観戦・利用に訪れたいとお考えですか。当てはまるものをいくつかもお答えください。」として、ミクスタで開かれるイベント種類の希望を尋ねた。本調査項目はミクスタが供用開始された直後の 2017 年 3 月調査から行っており、経年比較した結果を図 5 に示す。

2024 年調査までは最も多い回答は「アーティストによるコンサート、ライブ」であったが、2025 年調査からは最も多い回答は「わからない（利用予定なしを含む）」に変わり、2026 年 3 月調査においては、さらに「わからない（利用予定なしを含む）」とする回答が増加し 44.7%にのぼっている。一方で、具体的な用途を示した選択肢の回答は軒並み減少傾向となっている。前述のとおり利用経験ありの市民からのスタジアムへの評価は高いが、市民全体でみるとスタジアムへの関心が薄れている可能性が高い。前述のとおりミクスタ来場経験率も横ばい傾向がみられることから、開業から 10 年近く経過したミクスタへの市民の関心が低下している可能性があることは、地域にとって大きな課題と言える。

個別の選択肢についてみると、例年どおり最も多いのは「アーティストによるコンサート、ライブ」（33.4%）、次いで「サッカー日本代表（男子オリンピック代表や、女子代表など）の試合」（20.2%）、「サッカー J リーグ（ギラヴァンツ北九州など）の試合」（19.2%）がほぼ並んだ状態となっており、その次に「市民が芝生を活用するイベント」（17.0%）と

なっている。

前述のようにミクスタへの市民の関心が低下している可能性があることから、ミクスタへの関心喚起のために継続的に様々なスポーツやイベント誘致を進め、市民の多様なニーズに応じていくことが期待される。

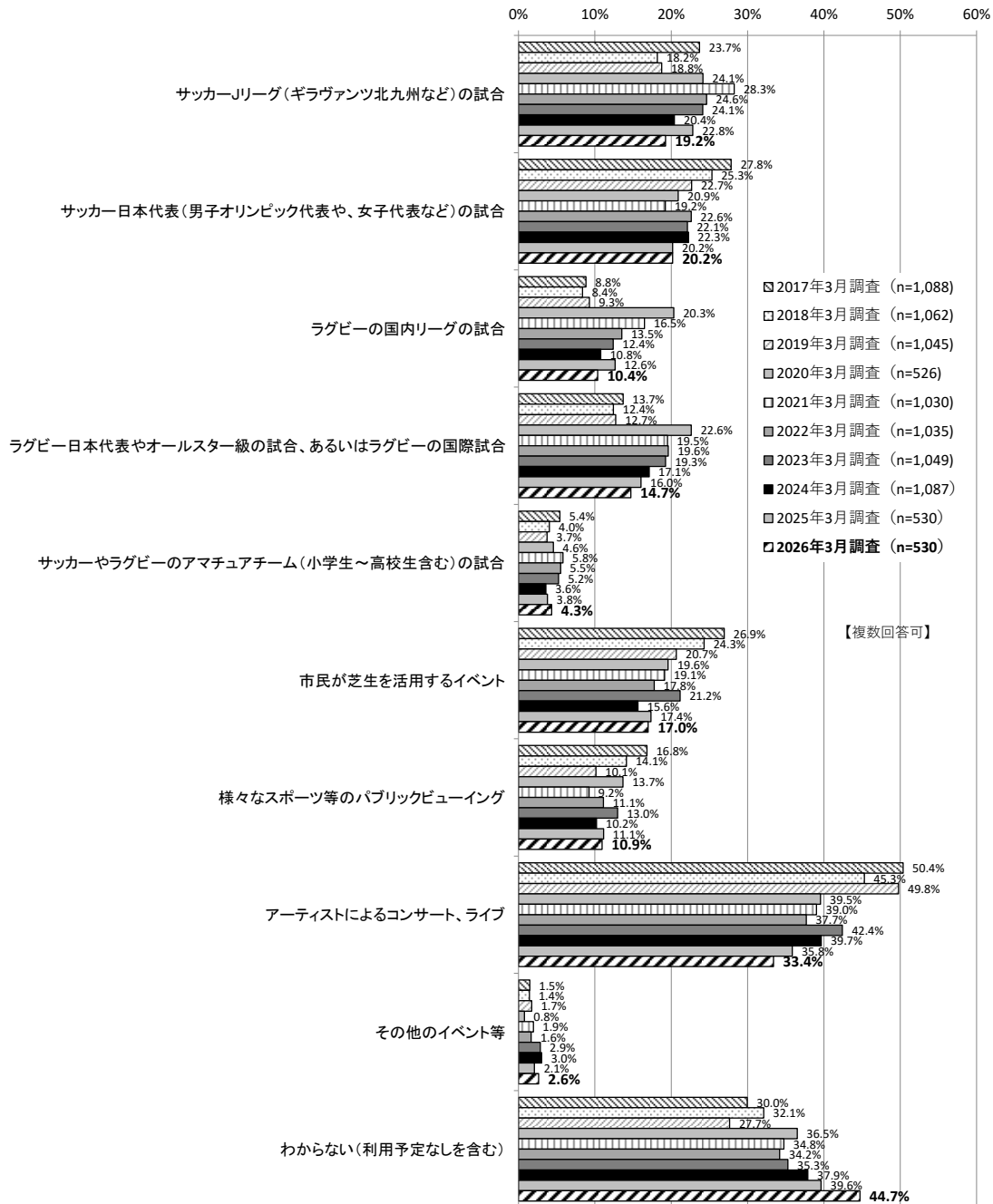


図5 ミクスタで開かれるイベント種類の希望（経年比較）

④ 今後のミクスタへの来場意向

回答者全体に対し、「あなたは今後、北九州スタジアム（ミクスタ）に行きたいと思いま

すか。最もあてはまる気持ちの一つを選んでください。」として、今後のミクスタへの来場意向を尋ねた。

2026年3月調査の結果をみると、回答者全体では「ぜひ行きたい」が4.9%、「できれば行きたい」が25.8%となっており、来場に肯定的な回答は30.8%である(図6)。一方で「あまり行きたくない」「全く行きたくない」という否定的な回答は22.3%となっており、「どちらとも言えない」が47.0%となっている。属性別にみると、サンプル数は少ないものの18-29歳において「ぜひ行きたい」とする回答がみられない一方、否定的な回答が多くなっており、若い世代の来場意欲が低いことが懸念される。

経年変化をみると、「ぜひ行きたい」「できれば行きたい」とする肯定的な回答は減少傾向にあり、最も少ない水準となっている一方、来場に否定的な回答が増加している(図7)。前述のとおり市民全体でみるとスタジアムへの関心が薄れている可能性が高く、市民の来場意欲を高めるべく、様々な利用の促進を一層強化していくことが求められる。

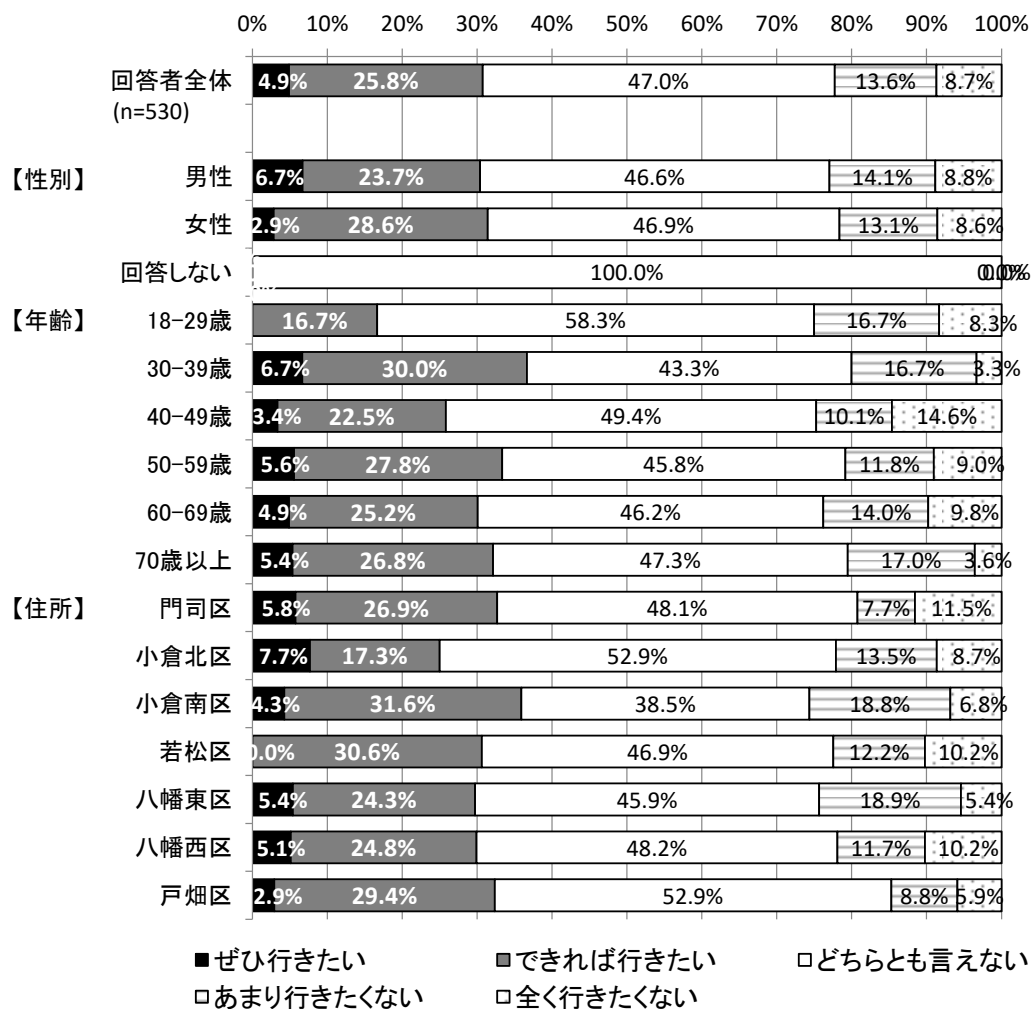
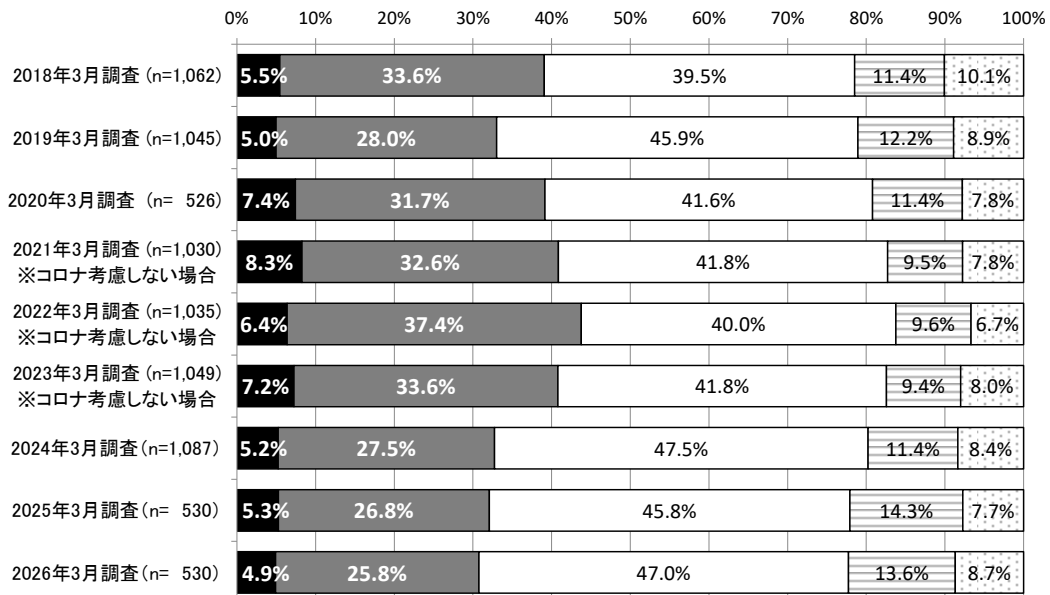


図6 今後のミクスタへの来場意向 (2026年3月調査)



■絶対に行きたい □できれば行きたい □どちらとも言えない □あまり行きたくない □全く行きたくない

図7 今後のミクスタへの来場意向（経年比較）

（2）Ｊリーグおよびギラヴァンツ北九州について

① 応援しているＪリーグクラブ

例年と同様、次の大問として、Ｊリーグおよびギラヴァンツ北九州に関する問への回答を求めた。最初に回答者全体に対し「あなたは現在、サッカーのＪリーグで応援しているクラブはありますか。応援しているクラブを選んでください。（回答はいくつでも）」として、応援しているＪリーグクラブについて複数回答可能な形で尋ねた。

2026年3月調査におけるクラブ別の結果をみると、過年度調査と同様「応援しているクラブは無い」が最も多く73.0%、応援しているクラブの中では「ギラヴァンツ北九州」が突出して多い21.9%、次いで「アビスパ福岡」10.8%となっている（図8）。

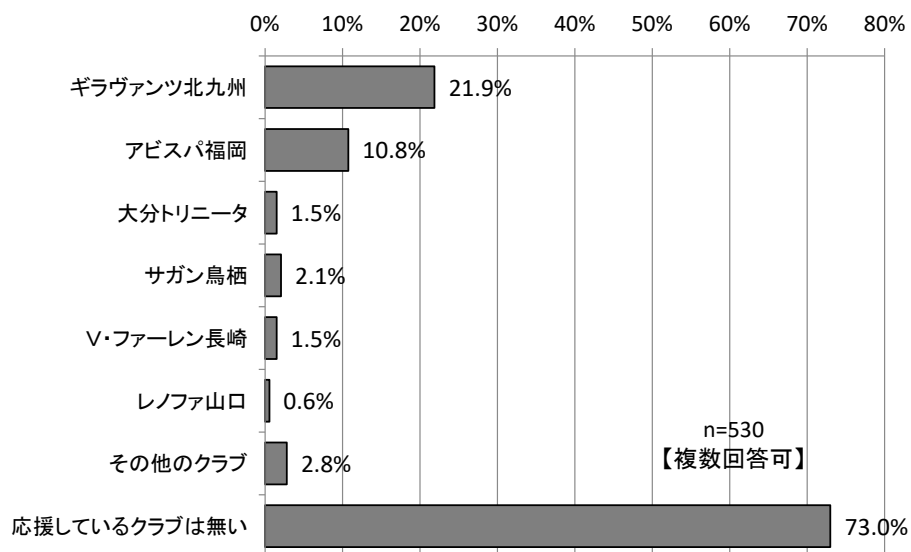


図8 応援しているＪリーグクラブ（2026年3月調査）

応援しているJリーグクラブについて「ギラヴァンツ北九州」と「応援しているクラブは無い」に絞って経年変化を見た結果を図9に示す。ギラヴァンツ北九州を応援すると回答した市民は2019年調査、2024年調査と同程度の最も低い水準に下がっている。過年度調査で明らかになっているように、2025年3月調査で応援する市民の比率が増加していることから、ギラヴァンツ北九州の前シーズンの成績と翌シーズン開幕時点の応援比率について連動性があると考えられ、2019年調査、2024年調査は、いずれも調査前年にギラヴァンツ北九州がJ3最下位であったことがリーグ開幕時点における応援率の低下に繋がったと考えられるが、2026年調査の前年の2025シーズンは、ギラヴァンツ北九州はJ3中位の8位であった。にもかかわらず応援率が低くなった要因として、J2昇格を目標としながらそれを実現できなかったことや、ギラヴァンツ北九州自体への関心の低下が考えられる。ギラヴァンツ北九州が置かれている状況としては厳しい状況と言えよう。後述する内容とも関連するが、チーム成績の向上に加え、市民から関心を持たれるような社会活動の充実等が、より一層重要な局面に差し掛かっているのではないかと考えられる。

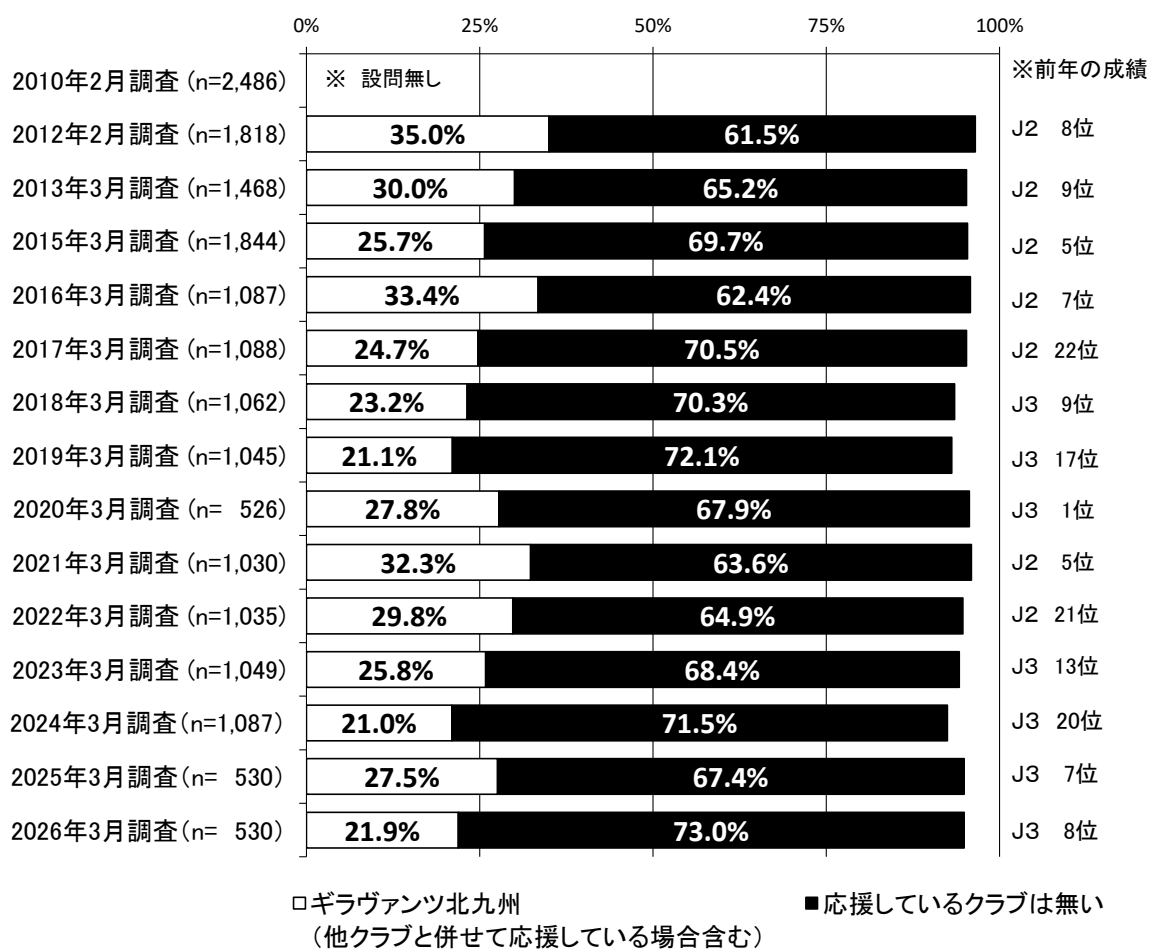


図9 応援しているJリーグクラブ（一部抜粋）（経年比較）

② ギラヴァンツ北九州（ニューウェーブ北九州含む）の試合のスタジアム観戦経験

①でギラヴァンツ北九州を応援しているとした回答者（n=116）に対し、「あなたは、サッカーのJリーグの「ギラヴァンツ北九州」（あるいは、その前身のニューウェーブ北九州）の試合をスタジアム（ミクスタのほか、本城陸上競技場なども含む。）で一度でも観戦したことがありますか。」として、ギラヴァンツ北九州の試合のスタジアム観戦経験をたずねた。2023年調査まではギラヴァンツ北九州の存在を認知している回答者を対象としていたが、2024年調査からはギラヴァンツ北九州応援者を対象とした設問に変更している。

2026年3月調査では、ギラヴァンツ北九州応援者のうち「スタジアムで観戦したことがある」が40.5%となっている（図10）。北九州市内に在住し、ギラヴァンツ北九州を応援している市民においてもスタジアム観戦経験のない人が引き続き多い状態にあるものの、応援している市民のスタジアム観戦比率は増加傾向にある点は良い傾向と言える。

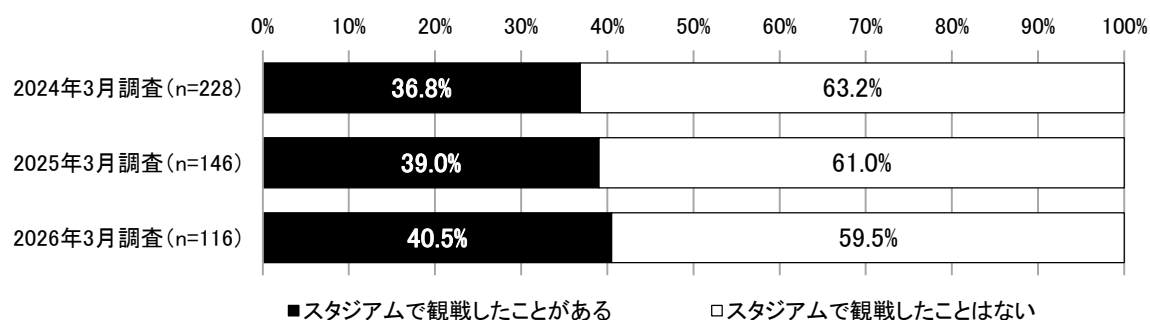


図10 ギラヴァンツ北九州の試合のスタジアム観戦経験（経年変化）

③ 今後のギラヴァンツ北九州の試合をミクスタで観戦する意向

回答者全体に対し「あなたは今後（2026年3月以降）、ギラヴァンツ北九州の試合を北九州スタジアム（ミクスタ）で観戦することについて、どのようにお考えですか。お気持ちに当てはまるものをお答えください。」として、ギラヴァンツ北九州の試合のスタジアム観戦意向を尋ねた。

2026年3月調査の回答者全体でみると、「ぜひスタジアムで観戦したい」は5.2%、「きっかけがあればスタジアムで観戦するかもしれない」は29.4%、「今のところはスタジアムで観戦するつもりはない」は64.3%であった（図11）。属性別にみると、居住区ごとではミクスタに比較的近い市東部の方が観戦意欲が高い傾向がみられる。

経年変化をみると、「ぜひスタジアムで観戦したい」とする回答者は2010年2月の調査開始以降、2026年3月調査が最も少ない数値になっている（図12）。2022年調査以降の減少傾向に歯止めがかかっていない。一方、「今のところはスタジアムで観戦するつもりはない」は過去最多となっており増加傾向にある。ギラヴァンツ北九州にとって厳しい状況を表しており、チーム成績向上、スタジアム観戦の付加価値向上に加え、社会貢献活動等を充実させる等、市民に親しまれるための実のある活動の充実、また広報活動の充実が一層重要となっていると言えよう。

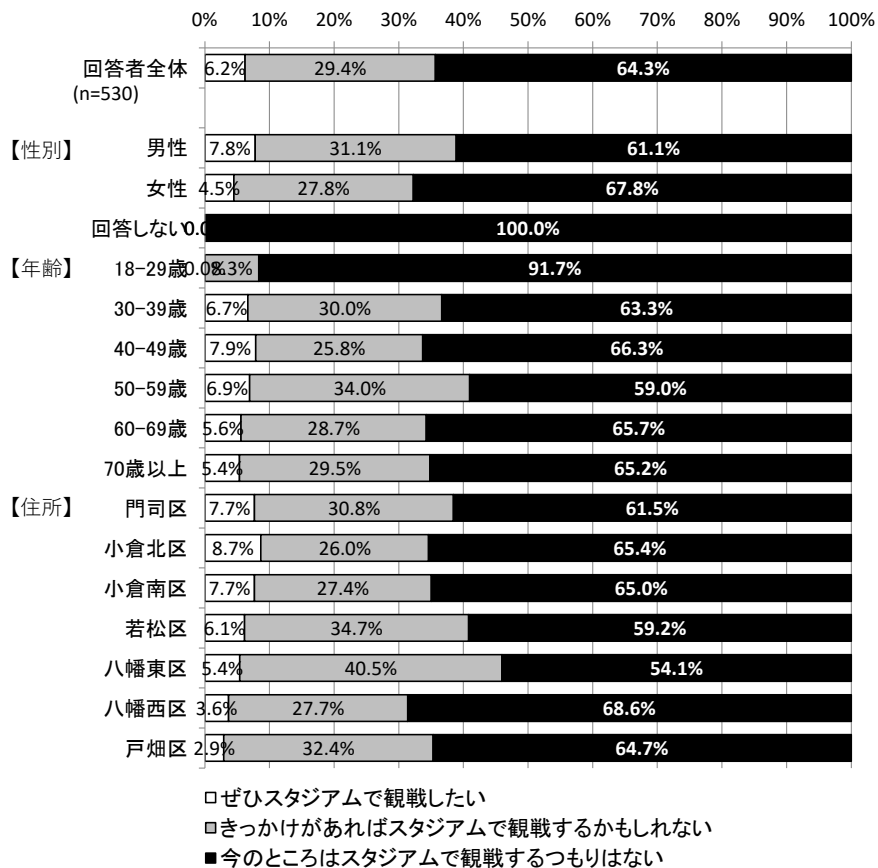


図 11 今後のギラヴァンツ北九州の試合をミクスタで観戦する意向（2026年3月調査）

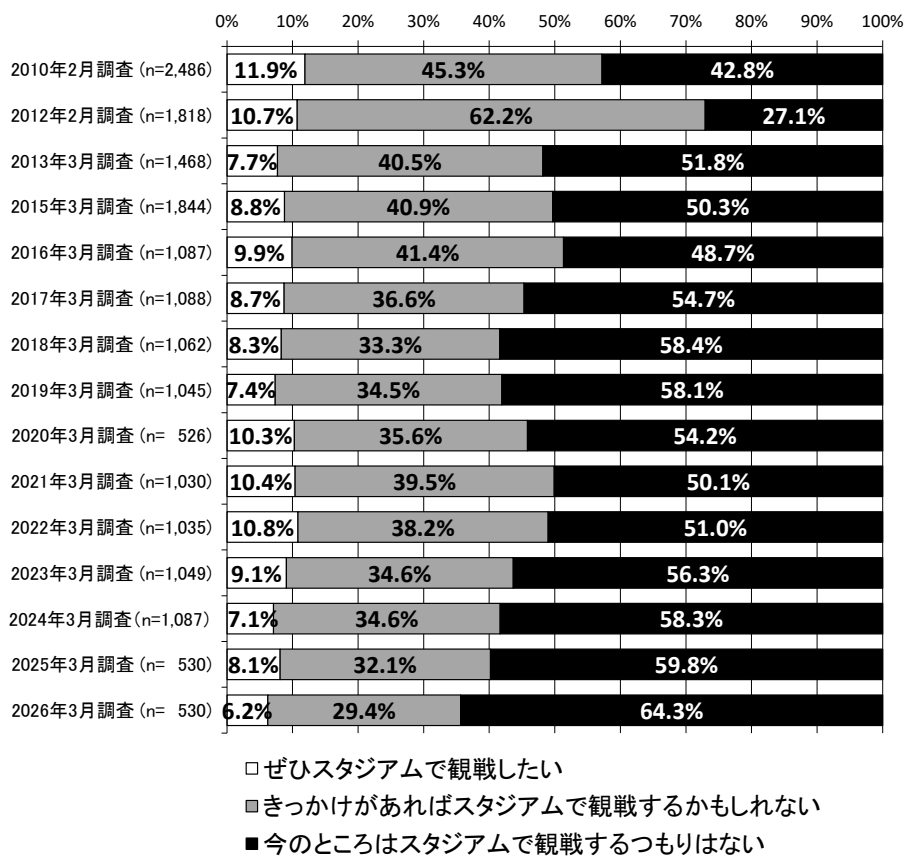


図 12 今後のギラヴァンツ北九州の試合をミクスタで観戦する意向（経年比較）

④ ギラヴァンツ北九州の試合を観戦するつもりのない理由

③で「今のところはスタジアムで観戦するつもりはない」とした回答者（n=341）に対し、『今のところはスタジアムで観戦するつもりはない』と考える理由について、主なものを3つまで選んでください。（回答は3つまで）として理由を尋ねた。

過年度同様、「サッカーに関心がないから」が56.6%で突出して多い（図13）。次いで「特に理由はない」、「ギラヴァンツ北九州の選手のことをよく知らないから」、「サッカーには関心はあるが、J3に関心がないから」となっている。「ギラヴァンツ北九州は弱いと思うから」については減少傾向にある。南（2025）などで指摘しているとおり、市民のスタジアムへの来場意欲を喚起するためにはギラヴァンツを既に応援している人々への浸透や結束強化を深めるだけでは不十分であり、関心の低い市民にどのように効果的にアプローチしていくかがギラヴァンツ北九州やそれを支える地域にとって極めて大きな課題である。特にスタジアムでの観戦意向がギラヴァンツ北九州のJリーグ加盟以降最低水準となっている現状を鑑みると、これまで以上の取り組みの充実が不可欠な状況にあると考えられる。

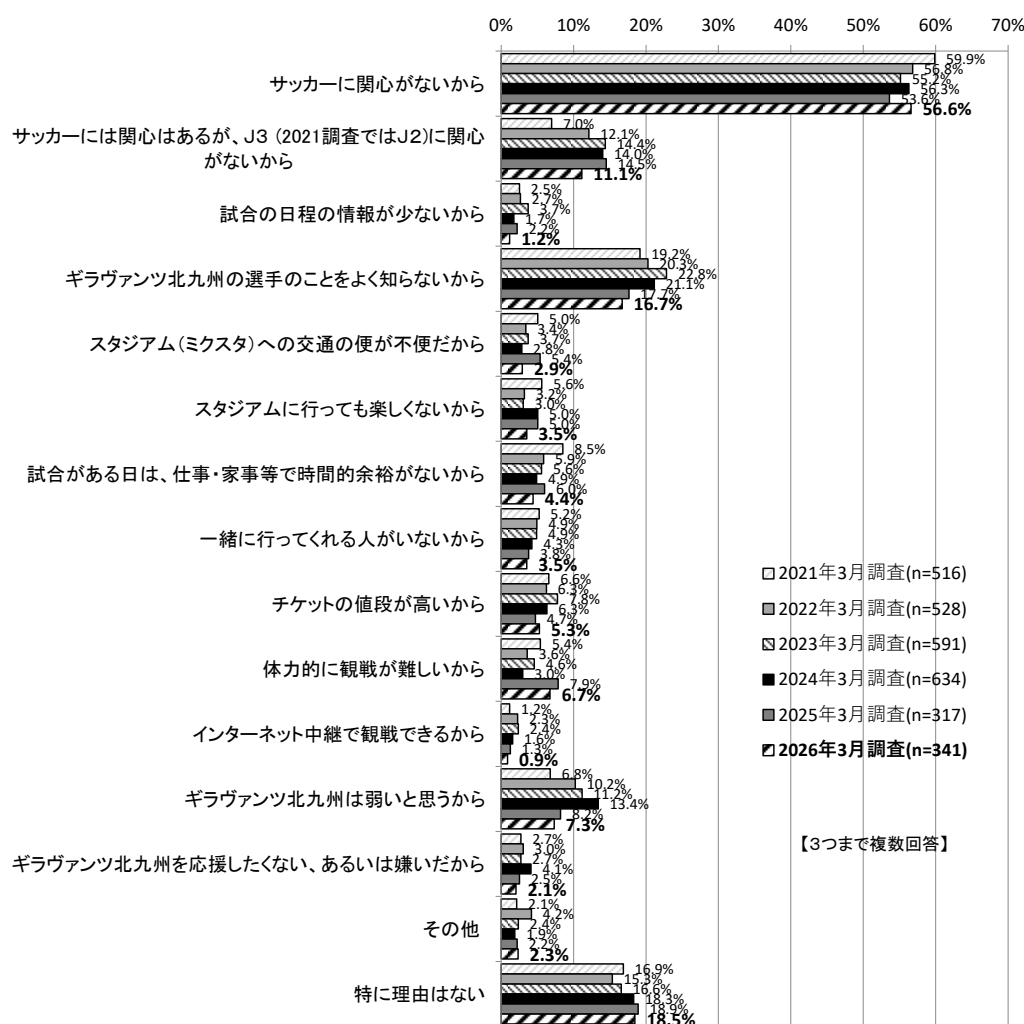


図13 ギラヴァンツ北九州の試合を観戦するつもりのない理由（経年比較）

⑤ ギラヴァンツ北九州が社会課題解決に向けた活動に取り組むことへの評価

ギラヴァンツ北九州が社会課題解決に向けた取り組みを強化し始めていることを踏まえ、2026年3月調査において、新たな設問を追加した。回答者全体に対し、「ギラヴァンツ北九州は、行政、企業、学校、NPO法人、ファン・サポーターの方々など、クラブを支えている皆さまと手を携えて、地球温暖化などの社会課題の解決を通じ、持続可能なまちづくりに寄与する取り組みである「Action！北九州サステナブルチャレンジ」というプログラムに取り組んでいます。あなたは、ギラヴァンツ北九州が社会課題解決に向けた活動に取り組むことについてどのように考えますか。（回答は1つ）」とたずねた。

回答者全体をみると、「大いに取り組むべき」は13.8%、「ある程度取り組むべき」は30.4%であり、これらの肯定的な回答は44.2%となっている。一方で「どちらとも言えない」は47.0%となっている。否定的な回答は少なく10%に満たないものの、肯定的な回答が半数に達していない状況にある。理由としては、「Action！北九州サステナブルチャレンジ」について本調査で初めて認識し詳細が不明のため「どちらとも言えない」と回答した市民が多かったと考えられることや、「社会課題解決に向けた活動も重要であるが、それよりもチーム成績向上が優先されるべき」と考える市民が多い可能性が考えられる。この設問については、このプログラムの取り組みの進展状況を踏まえながら、今後、経年変化をみて考察を深めていくこととしたい。

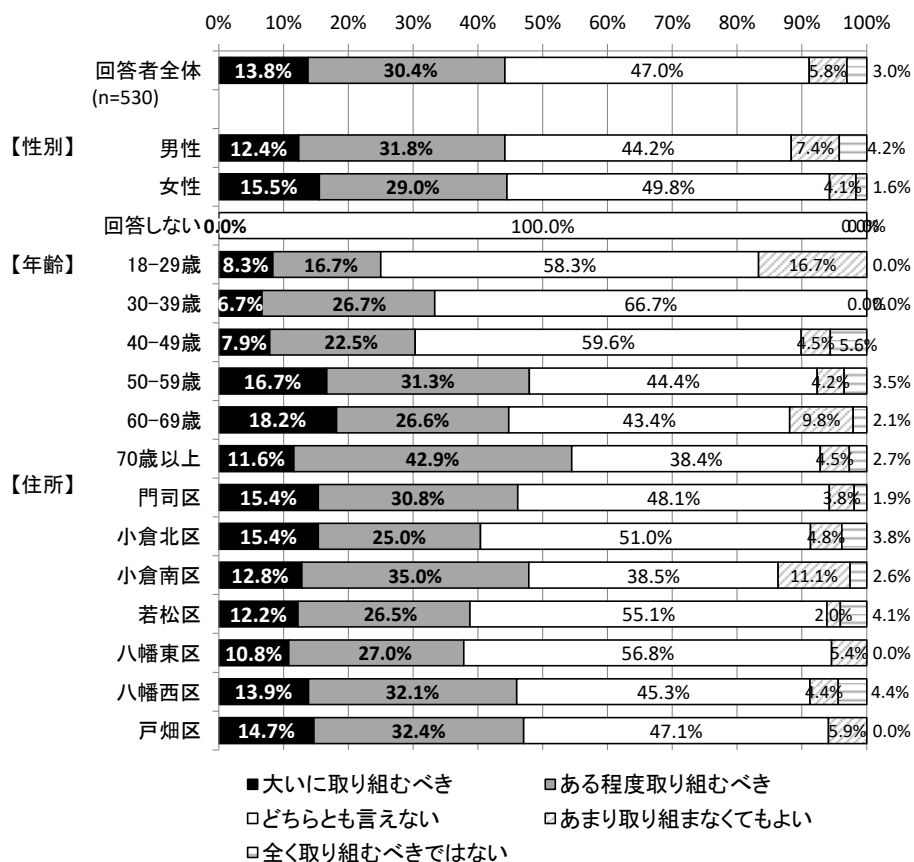


図 14 ギラヴァンツ北九州が社会課題解決に向けた活動に取り組むことへの評価

⑥ ギラヴァンツ北九州に対する愛着

回答者全体に対し、「あなたは、ギラヴァンツ北九州に対して「愛着」を感じますか。(回答は1つ)」として、ギラヴァンツ北九州に対する愛着をたずねた。

2026年3月調査の回答者全体をみると、「大いに感じる」は6.0%、「やや感じる」の35.8%となっており、愛着があるとする回答は市民の半数には至っていない(図15)。経年変化をみると、愛着を「大いに感じる」と「やや感じる」の合計は減少局面にあったが2026年3月調査では前年より増加している。前述のギラヴァンツを応援する市民の減少や観戦意向のある市民の減少とは異なる傾向となっているが、その理由は今後の検討が必要であるものの、選手による学校訪問や、前述の「Action!北九州サステナブルチャレンジ」といった取り組みが市民の愛着増に繋がった可能性があり、その場合はクラブによる取り組みの成果と言えよう。しかしながら南(2025)等で述べているとおり、基本的にはチーム成績によらず市民に愛着を持ってもらえるクラブを目指すべきであるが、現状として愛着を感じる市民が半数に満たないことはギラヴァンツ北九州にとって大きな課題であり、これまで以上の社会貢献活動や愛着をもってもらえるような活動が求められよう。

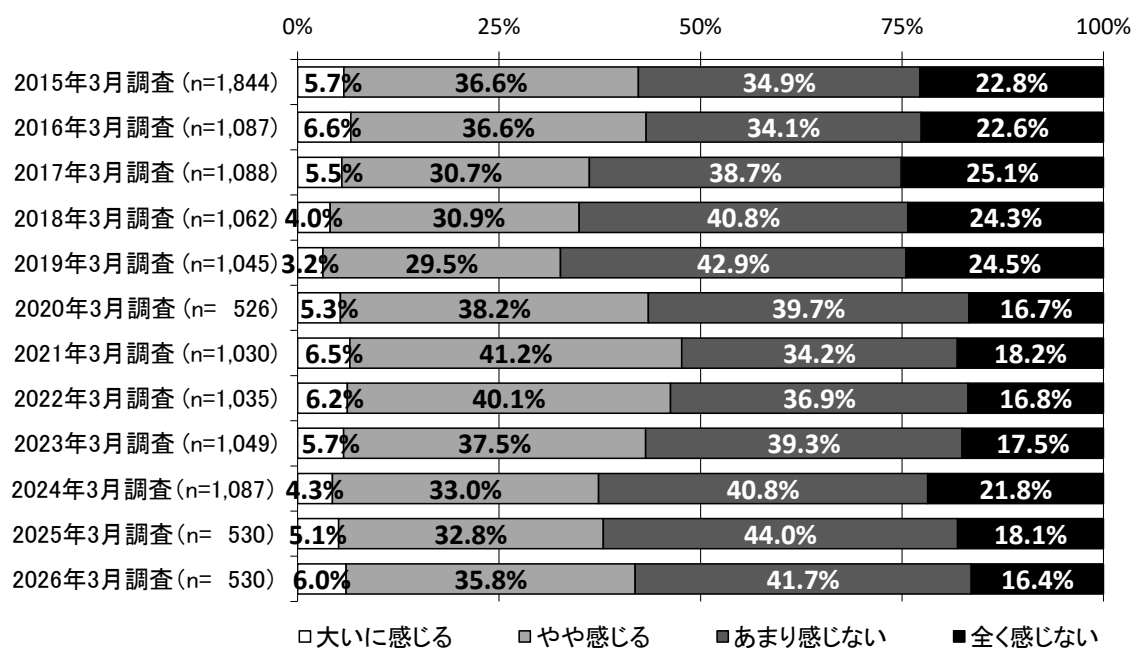


図15 ギラヴァンツ北九州に対する愛着(経年比較)

(3) 「みるスポーツ」を中心とした、スポーツ関連のその他のことについて

① 北九州市等で活動している主なスポーツチームの認知・観戦状況

回答者全体に「あなたは、北九州市や周辺で活動している、以下のチームやクラブについて御存知ですか。それぞれ一つ選んでください。」として、北九州市等で活動している主な5つのスポーツチームの認知・観戦状況について尋ねた。回答者全体でみた結果を図16に示す。過年度調査と同様、プロ野球(NPB)の福岡ソフトバンクホークス、サッカーJ

リーグのギラヴァンツ北九州は概ね 90%以上の認知度があり、特に福岡ソフトバンクホークスについては 60%以上が観戦経験（テレビ・ネット配信含む）ありと回答しており、突出して多くなっている。過年度調査と同様、北九州下関フェニックス（野球の九州アジアリーグ）については認知度が 50%を超えており、活動開始 5 年以内の新しいチームとしては特筆できる。フットサル F リーグのボルクバレット北九州、女子ソフトボール J D リーグのタカギ北九州ウォーターウェーブについては認知度が 20～30%程度となっている。

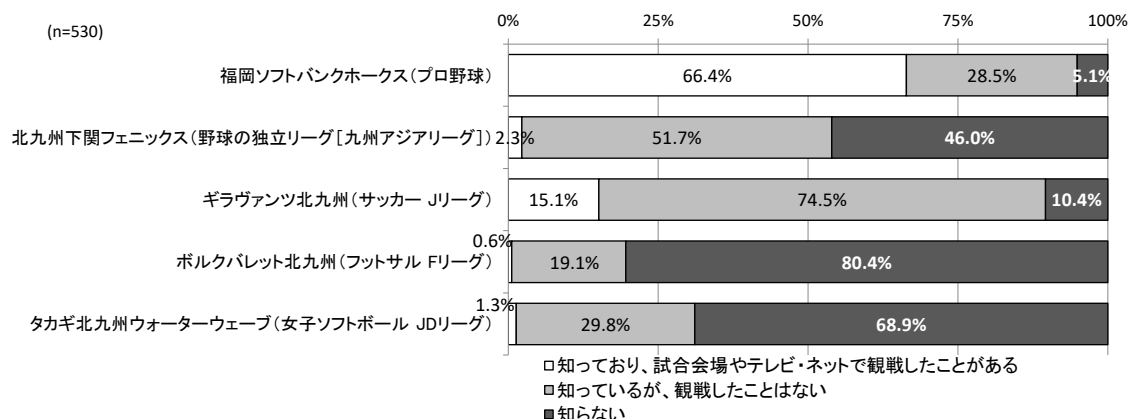


図 16 北九州市等で活動している主なチームの認知・観戦状況（2026 年 3 月調査）

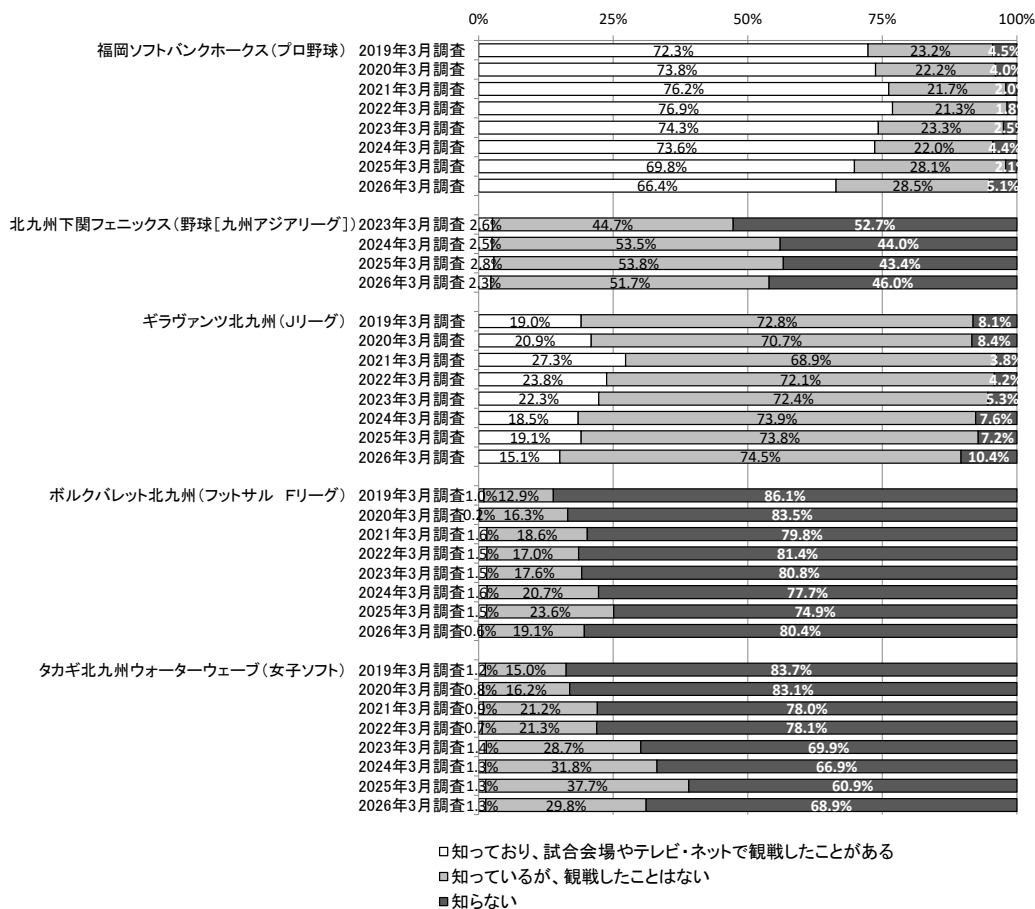


図 17 北九州市等で活動している主なチームの認知・観戦状況（経年比較）

経年変化をみると（図 17）、認知度が比較的低い北九州下関フェニックス、ボルクバレット北九州、タカギ北九州ウォーターウェーブはいずれも 2025 年調査までは認知度は上昇傾向であったものの 2026 年 3 月調査ではいずれも認知度が減少に転じている。また、観戦経験については横ばいとなっている。2022 年 10 月に発足した「北九州市プロスポーツチーム等連絡会議」（北九州市をホームタウンとするプロスポーツチーム等と北九州市で構成）において各クラブが連携した情報発信や地域活動等が行われているが、こうした活動の充実強化により、認知度向上を進め地域活性化にも繋げていくことが求められる。

なお、2025 年調査までの 3 年間に於いてはこの設問の後に 5 チームの試合観戦意向を尋ねる問を設けていたが 2026 年 3 月調査では省略した。また、6 年間にわたり国際スポーツ大会、外国選手団キャンプ誘致の意義を尋ねる問も設けていたが、その間については、近年の北九州市の政策動向を反映し下述のアーバンスポーツに関する設問と入れ替えた。

② アーバンスポーツの聖地を目指す取り組みに対する評価

北九州市の 2025 年度のスポーツ政策を反映し、回答者全体に対し『スポーツは街のにぎわいを創出するエンジンであり、そのためにはスポーツと街の一体化が必要』という観点から、北九州市ではスケートボードやブレイキン（ダンス）などの『アーバンスポーツ』の聖地を目指す取り組みを始めています。街と音楽、ファッションと融合させ、アーバンスポーツのポテンシャルを最大限に引き出そうとする取り組みについて、あなたはどのように考えますか。（回答は 1 つ）」という問を今回から設けた。結果を図 18 に示す。

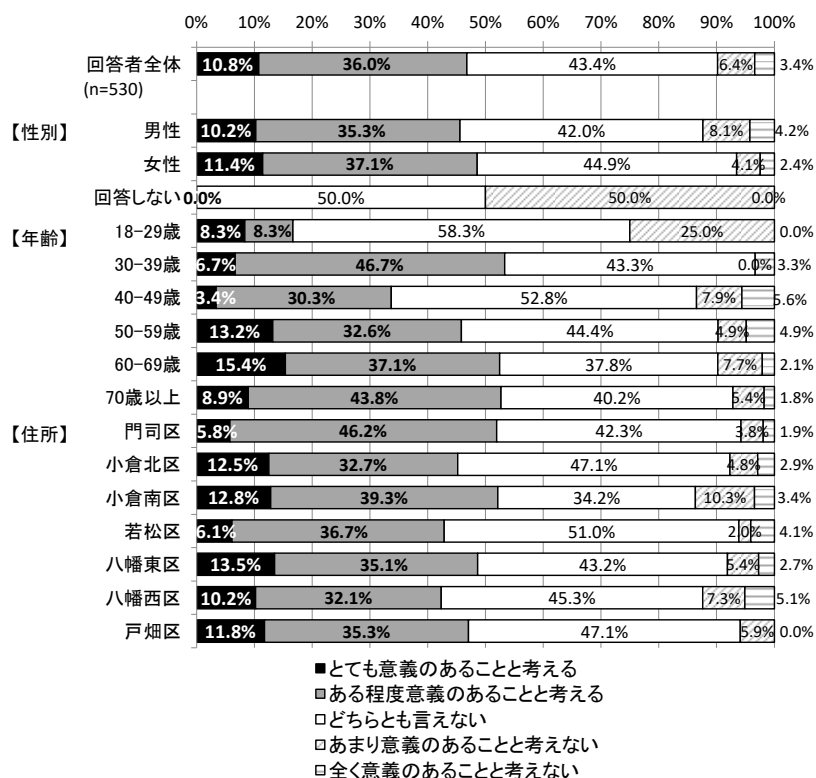


図 18 アーバンスポーツの聖地を目指す取り組みに対する評価（2026 年 3 月調査）

回答者全体でみると、「とても意義のあることと考える」が 10.8%、「ある程度意義のあることと考える」が 36.0%であり、半数近くが肯定的な回答となっている。一方で、否定的な回答が少ないものの「どちらとも言えない」が 43.4%となっている。年齢別にみると、50 歳代、60 歳代においては「とても意義のあることと考える」が 15%前後と比較的高くなっており、また 70 歳以上においても「ある程度意義のあることと考える」も含めた肯定的回答は多くなっている。年齢の高い世代においてアーバンスポーツが拒絶されている傾向は見られない点は、今後の施策の発展可能性が期待できる材料と言えよう。

アーバンスポーツの聖地化に関しては、まちづくりにおいて今後様々な調整事項が生じると考えられるが、まちづくりにおける意義を具体的に分かりやすく市民に提示し、また各種大会やイベント誘致を通じて開催効果を持続的に発揮していく取り組みを続けることで市民の理解度は高まっていくことが予想され、実際の地域活性化効果が生まれていくことが期待される。

(4) 文化芸術や各種イベントのことについて

① 第 3 回北九州国際映画祭開催の認知度

北九州市において近年始まった大規模な文化芸術イベントとして、北九州国際映画祭がある。これに着目し、全回答者に対し「2026 年 2 月 27 日から 3 月 1 日にかけて第 3 回『北九州国際映画祭』が開催されました。あなたは、この映画祭が開催されたことを御存じですか。最も近いものを一つ選んでください。(回答は 1 つ)」と尋ねた結果を図 19 に示す。

回答者全体でみると、「知っており、参加した(あるいは関連イベントを開催しているのを見かけた)」が 3.0%、「知っているが、参加したり見かけたりはしていない」が 44.9%であり、半数弱の市民は本調査実施直前に開催された第 3 回北九州国際映画祭の開催自体については認知していたことが確認された。都心部の小倉駅や魚町銀天街などで告知のための大規模な都市装飾(写真 1)が行われたことも認知度の向上に繋がった可能性がある。



写真 1 第 3 回北九州国際映画祭の都市装飾 [左：小倉駅、右：魚町銀天街] (筆者撮影)

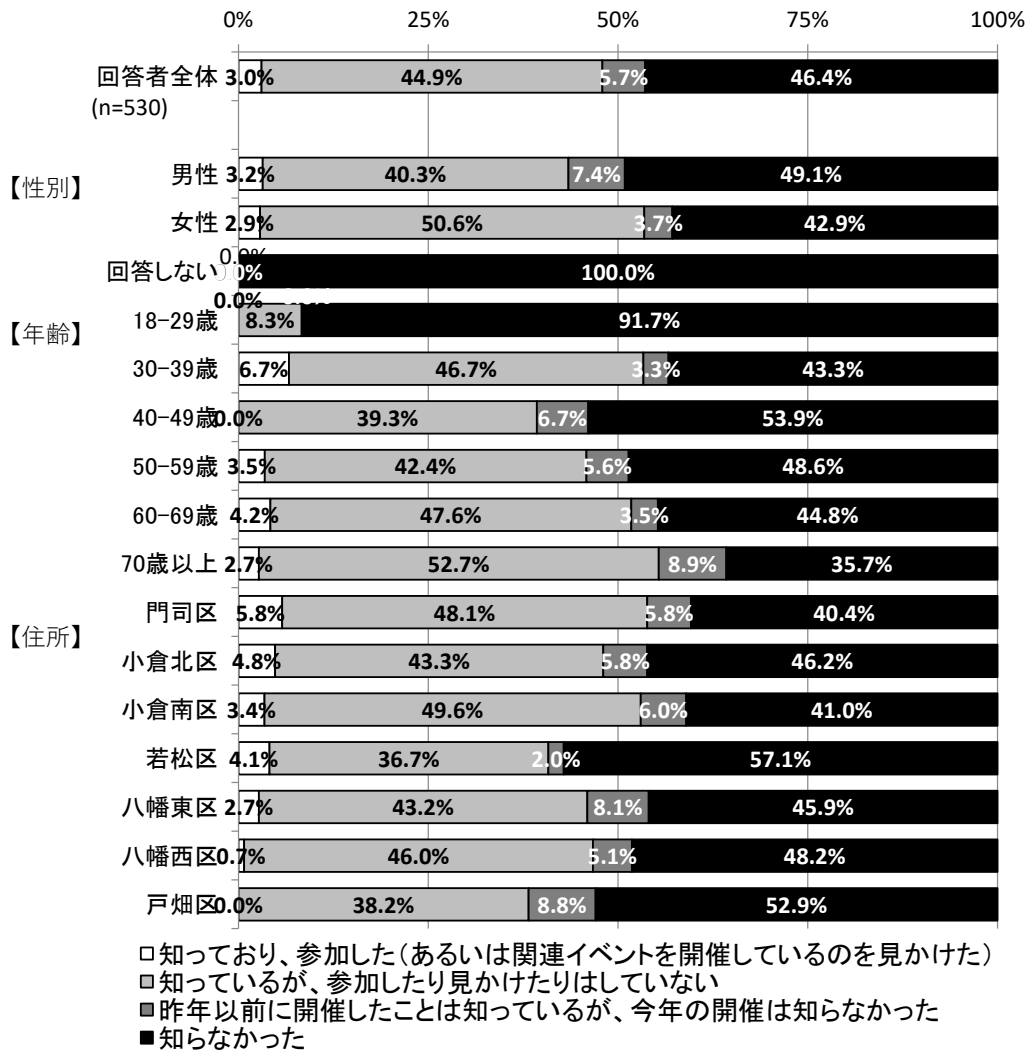


図 19 第3回北九州国際映画祭開催の認知度 (2026年3月調査)

一方、「昨年以前に開催したことは知っているが、今年の開催は知らなかった」は5.7%、「知らなかった」は46.4%であった。半数強の市民は映画祭開催について認知していなかったことから、映画祭が継続される場合は今後さらなる広報活動が必要と言えよう。

属性別にみると、若年層ほど「知らなかった」比率が高く、また今回の映画祭の会場となった小倉北区中心部から遠い市西部ほど「知らなかった」比率がやや高い傾向が見られる。市内全域の盛り上がりを目指す場合、広報活動のあり方や、開催場所のあり方等についても更なる工夫の検討が必要となる可能性が指摘できる。

② 1年間に直接鑑賞した文化芸術分野

「昨年(2025年)1年間に、あなたが直接鑑賞した文化芸術分野について選択してください。なお、「直接鑑賞」とは現地や映画館、ホールなどに行って鑑賞したものを指します。テレビ、ラジオ、CD・DVD、ネット配信(リアルタイム・オンデマンド)での視聴は除きます。」として、23分野(2024年調査では21分野)および「観賞したものはなし/わ

からない」を加えた 24 の選択肢から回答を求めた。この設問および選択肢については、2023 年調査、2024 年調査と同様、文化庁が実施している「文化に関する世論調査」とほぼ同様のものとした。その理由は、全国的な文化芸術関連の市民の行動実態と北九州市民の行動実態を比較することにより、北九州市民のおかれた状況を把握するためである。なお、選択肢について 2025 年 1 月実施の文化庁調査の選択肢と整合させ³⁾、選択肢の順番もそれに合わせて変更した。なお、文化庁調査の選択肢（21 個）に加え北九州市でのイベント開催実績を勘案し、「食文化の展示、イベント」および「ファッションショーなど服飾系のイベント」の 2 分野を追加している。

2026 年 3 月調査の回答者全体の結果を図 20 に示す。最も多いのは「鑑賞したものはない／わからない」の 54.5%であった。直接行った鑑賞分野として最も多いのは「映画（アニメーション映画を除く）」の 21.7%、次いで「歴史的な建物や遺跡（社寺・城郭等、遺跡、名勝地（庭園など）などの文化財）」14.3%、「ポップス、ロック、ジャズ、歌謡曲、演歌、民族音楽など」10.9%、「自然史博物館、科学館、動物園、水族館など」10.9%、「美術（絵画、版画、彫刻、陶芸、書、写真、デザイン、建築、服飾など）」10.6%となっており、これら 5 分野については 10%以上の市民が直接鑑賞している。傾向としては 2025 年 3 月調査と類似しているが、全体的に直接鑑賞率が低下しており、また、新たに選択肢に追加した「自然史博物館、科学館、動物園、水族館など」が上位に入っていること等に違いがある。

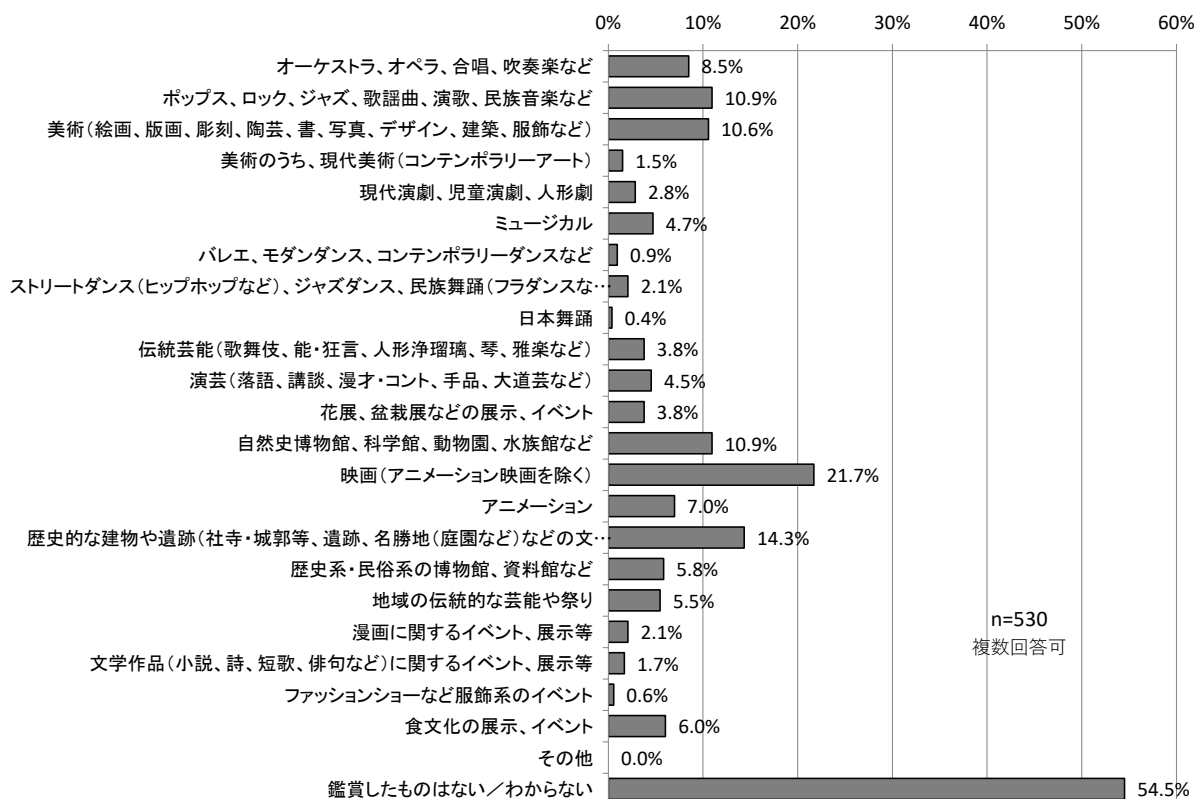


図 20 2025 年の 1 年間に直接鑑賞した文化芸術分野（選択肢順）（2026 年 3 月調査）

この設問について、本研究の過年度調査および文化庁「文化に関する世論調査」との比較を行った（図 21）。ただし、本研究および文化庁調査とも 1 年間における鑑賞行動の回答を求めているが、北九州市立大学地域戦略研究所の実施する調査と文化庁の調査では、回答者が直接鑑賞したと回答する対象年に 1 年のズレが生じるため、2025 年の直接鑑賞の状況を質問した本 2026 年 3 月調査と同じく 2025 年の全国状況を調査した文化庁調査は本稿執筆時点では未公表である（直近の公表結果は 2024 年の直接鑑賞について尋ねたもの）。そのため、文化庁の 2025 年 1 月調査と比較可能な調査結果は、北九大による 2025 年 3 月調査となる。

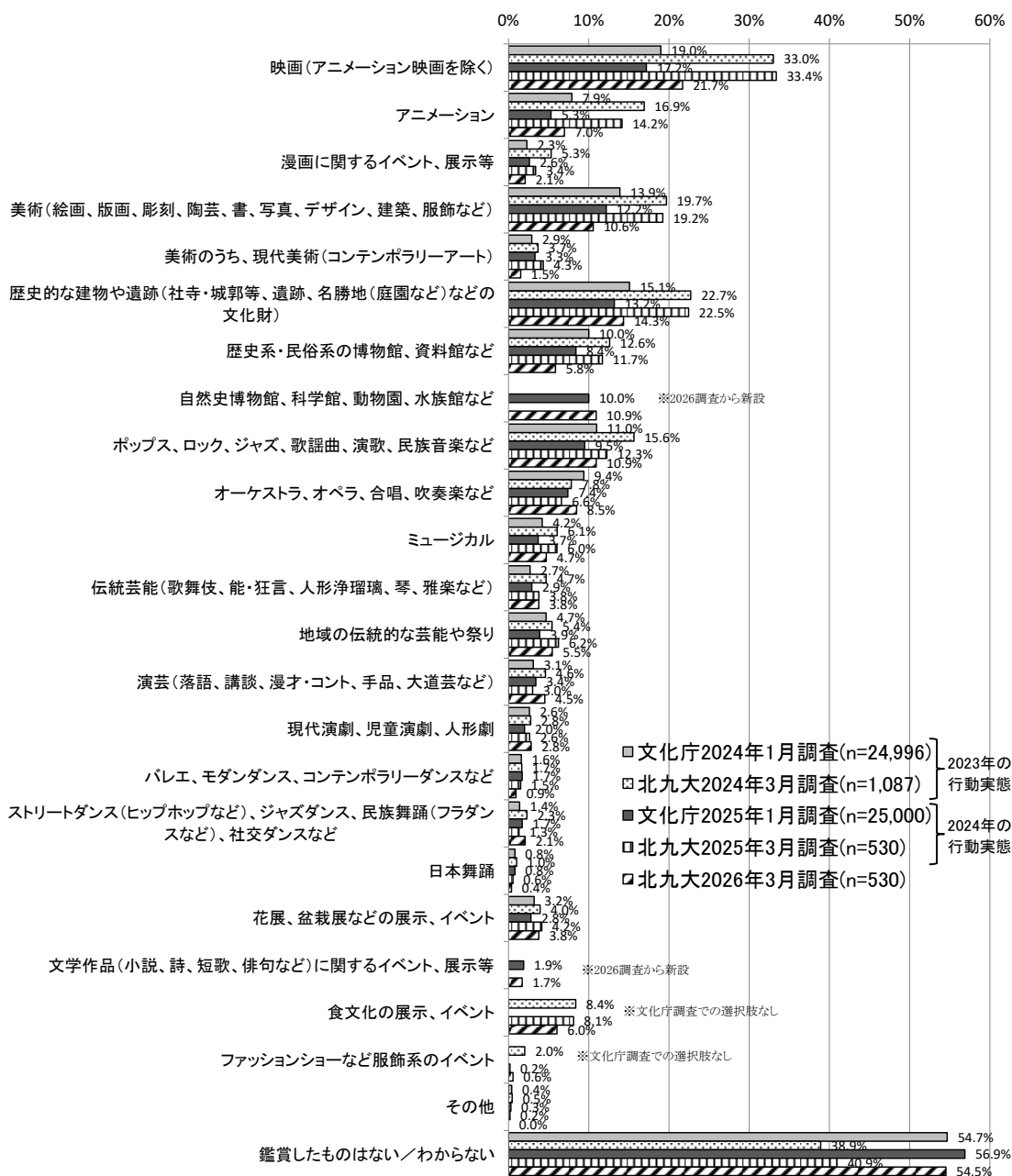


図 21 1 年間に直接鑑賞した文化芸術分野（文化庁による全国調査との比較）

まず、北九州市を対象とする北九大 2025 年 3 月調査と北九大 2026 年 3 月調査を比較すると、直接鑑賞率の高い順番の分野の傾向には大きな違いはないものの、多くの分野で直接鑑賞率が減少または横ばいとなっている。そして「鑑賞したものはない／わからない」が増加している。その理由についての考察は困難であるが、対象年が 1 年ずれるものの文化庁 2024 年 1 月調査と文化庁 2025 年 1 月調査を比較すると全国的にも直接鑑賞率が減少傾向にある分野が多く、「鑑賞したものはない／わからない」が増加していることから、全国的に直接鑑賞率が停滞している可能性がある。今後の分析・考察課題としたい。

次に文化庁調査との比較について、調査対象時期が一致する文化庁 2025 年 1 月調査と北九大 2025 年 3 月調査を比較すると、鑑賞率の高い分野の傾向は類似しており、鑑賞率については「映画（アニメーション映画を除く）」をはじめ全体的に北九州市民の方が鑑賞率が高い傾向にあるとともに、「観賞したものはない／わからない」は北九州市民の方が大幅に低くなっている。文化庁 2024 年 1 月調査と北九大 2024 年 3 月調査の比較においても同様である。南（2025）で述べたように、これは北九州市民の鑑賞機会の多さ、文化芸術の各分野への関心の高さを表していると考えられる。全国を対象とした文化庁調査と比較して北九州市民の方が鑑賞率が低い分野としては「オーケストラ、オペラ、合唱、吹奏楽など」、「演芸（落語、講談、漫才・コント、手品、大道芸など）」、「ストリートダンス（ヒップホップなど）、ジャズダンス、民族舞踊（フラダンスなど）、社交ダンス」等が挙げられるが、その差は 1 ポイント未満であり、基本的に全国水準以上の直接鑑賞率を北九州市民は有していると言える。

③ 1 年間に行った文化芸術の直接鑑賞の場所

①でいずれかの分野の文化芸術の直接鑑賞を行った回答者（n=241）に対し、「2025 年に行った文化芸術の直接鑑賞の場所について当てはまるものを全て選んでください」と尋ねた結果を図 22 に示す。

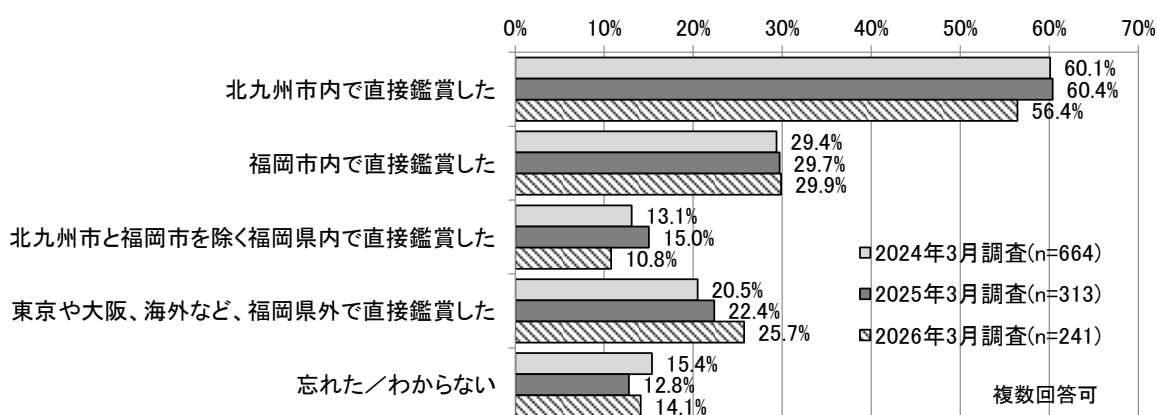


図 22 1 年間に行った文化芸術の直接鑑賞の場所（経年比較）

56.4%が「北九州市内」と回答しており、北九州市においても鑑賞機会がある程度充実していることが確認できる。また29.9%が「福岡市内」と回答している。これらについては2025年3月調査と概ね同じ傾向にある。次いで多いのは「福岡県外」であり、25.7%となっている。これは北九州市の広域的な交通アクセスの良さが影響していると考えられる。「福岡県外」が年々増加傾向にあることに関しては、市内で直接鑑賞できない公演等に対するニーズが高まっている可能性もあり得るため、今後の調査においてはその要因を考察可能な設問を加えることを検討したい。

④ 北九州市の文化的な環境に対する満足度

回答者全体に対し、「あなたは北九州市の文化的な環境について、満足していますか。最もあてはまるものをそれぞれ一つ選んでください」として、文化芸術の鑑賞機会、文化芸術活動の実践、文化財や伝統的まちなみの保存・整備、文化的環境の総合的な満足度の4つについて尋ねた。この設問および選択肢は、文化庁「文化に関する世論調査」と比較するため、整合させた。なお、文化庁調査においては「北九州市の文化的な環境」ではなく、「お住まいの地域での文化的な環境」への満足度を尋ねる設問となっている。

本研究の2026年3月調査の結果を図23に示す。「文化芸術の鑑賞機会」、「文化財や伝統的まちなみの保存・整備」、「文化的環境の総合的な満足度」については、「満足している」「どちらかといえば満足している」の肯定的な回答がいずれも30%台となっている。否定的な回答はいずれも20%台となっており、肯定的な回答の方がやや多い。「文化芸術活動の実践(創作や習い事、祭りや体験活動への参加など、自分で活動する機会)」については、肯定的な回答が28.7%であり、他項目より低いものの否定的な回答の25.5%よりはやや上回っている。各項目とも「関心がない」とする回答が35~45%程度と多くなっており、文化芸術の各機会等への関心が高くない市民も多いと言えよう。

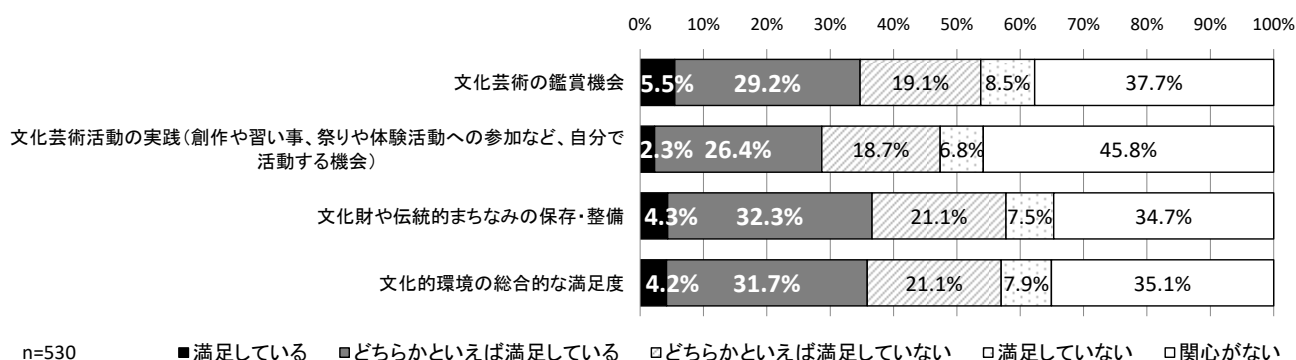


図23 北九州市の文化的な環境に対する満足度(2026年3月調査)

本研究(2024~2026年調査)と文化庁調査の結果を比較したものを図24に示す。「文化芸術活動の実践」のみ、肯定的回答の比率が全国と北九州市で同程度であり、他項目に

については北九州市民を対象とした本調査の方が肯定的な回答が高い傾向にある。北九州市におけるこれらの環境は充実していると言えよう。しかしながら、本研究の2026年3月調査においては、各項目とも2024年調査、2025年調査と比較すると肯定的回答が減少していることは要注意点として挙げられよう。

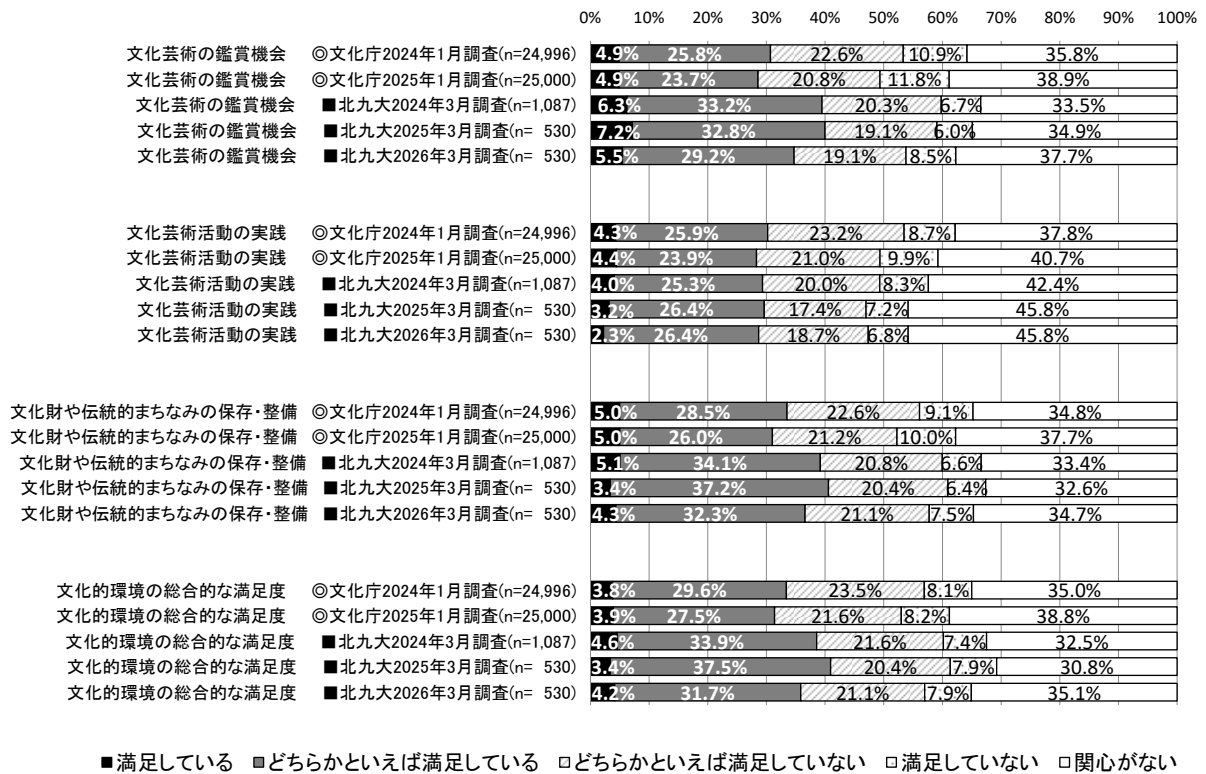


図 24 住んでいる地域の文化的な環境に対する満足度（文化庁による全国調査との比較）

⑤ 北九州市内で直接鑑賞できる機会が増えてほしい文化芸術分野

回答者全体に「今後、北九州市内で直接鑑賞できる機会が増えてほしいとあなたが思う文化芸術分野について選択してください。」と尋ねた。選択肢となる文化芸術分野は①と同様としており、2026年3月調査では過年度調査を一部変更している。

2026年3月調査において最も多い回答は「鑑賞したいものはない／わからない」の37.0%となっている（図25）。回答者の約3分の1は市内での鑑賞機会増加を希望する分野が無い状況であるが、残る約3分の2は何らかの分野の鑑賞機会増加を期待していることとなる。機会増加希望率が高いのは、「ポップス、ロック、ジャズ、歌謡曲、演歌、民族音楽など」23.4%で唯一20%を超える回答となっている。次いで「歴史的な建物や遺跡（社寺・城郭等、遺跡、名勝地などの文化財）」19.6%、「オーケストラ、オペラ、合唱、吹奏楽など」19.4%、「自然史博物館、科学館、動物園、水族館など」18.7%、「美術（絵画、版画、彫刻、陶芸、書、写真、デザイン、建築、服飾など）」18.3%、「映画（アニメーション映画を除く）」17.2%、「食文化の展示、イベント」16.4%などとなっており、多様な

分野に多くの市民の関心が広がり、分散した状況となっていると言えよう。また、これらの多くは北九州市内に会場となる既存施設や地域資源が存在する分野であり、回答者が実現可能性を考慮して回答した可能性もある。

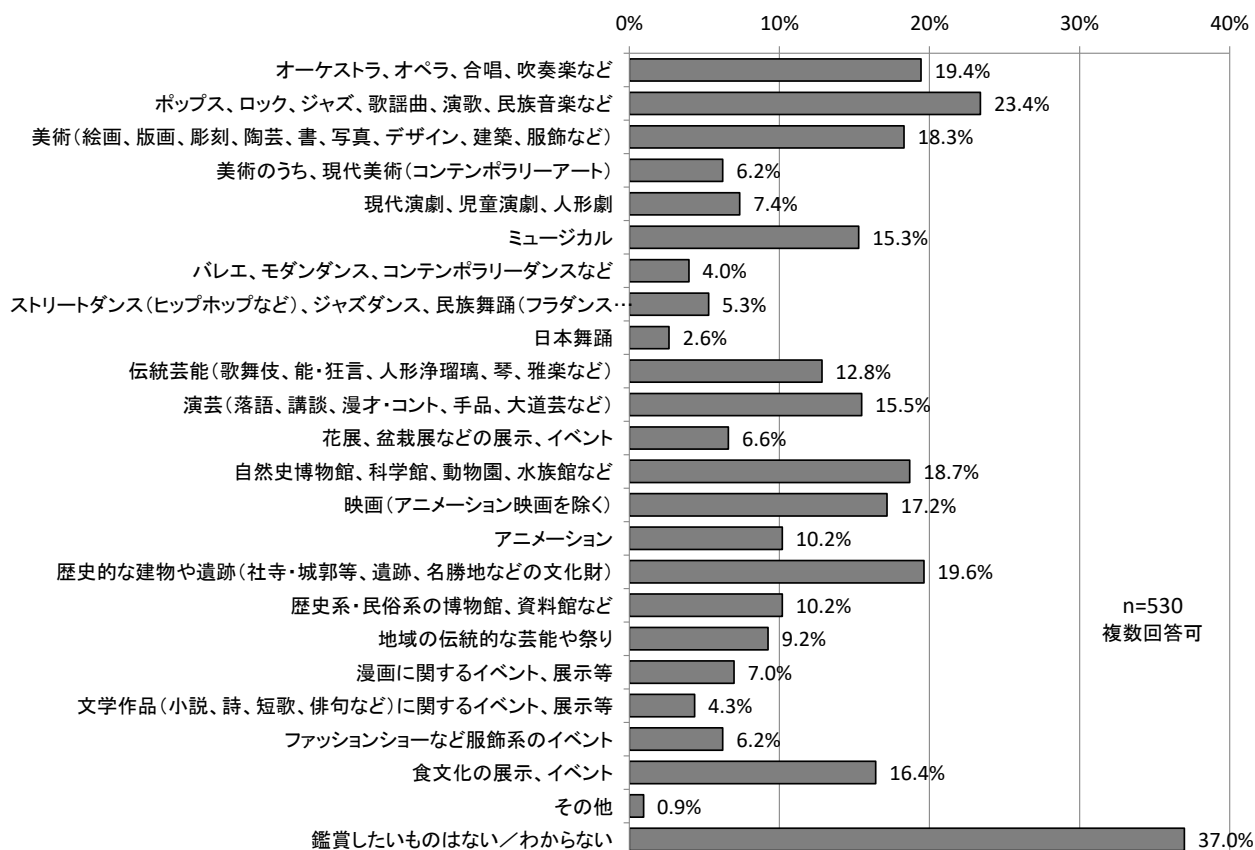


図 25 北九州市内で直接鑑賞できる機会が増えてほしい文化芸術分野(2026年3月調査)

この設問について、2024年調査、2025年調査と2026年3月調査を比較したものを図26に示す。2026年3月調査においては全体的に機会増加希望率が減少傾向にあり、特に過年度調査において希望率が高かった分野において減少幅が大きい傾向が見られる。特に減少が大きい「映画」に関しては、本設問の前に北九州国際映画祭に関する問があったことから、直接鑑賞機会が既に充実していると判断された可能性もある。2026年3月調査において2025年調査よりも増加している分野としては、「オーケストラ、オペラ、合唱、吹奏楽など」、「演芸(落語、講談、漫才・コント、手品、大道芸など)」にとどまり、「観賞したいものはない／わからない」が8ポイント程度増加している。④で明らかになったように北九州市における「文化芸術の鑑賞機会」に満足している市民も多いことから機会増加希望率が高まっていない可能性もあるが、本調査ではこの結果を考察する材料が不足している。考察を深めるための設問の新設や分析方法の検討を今後の課題とする。

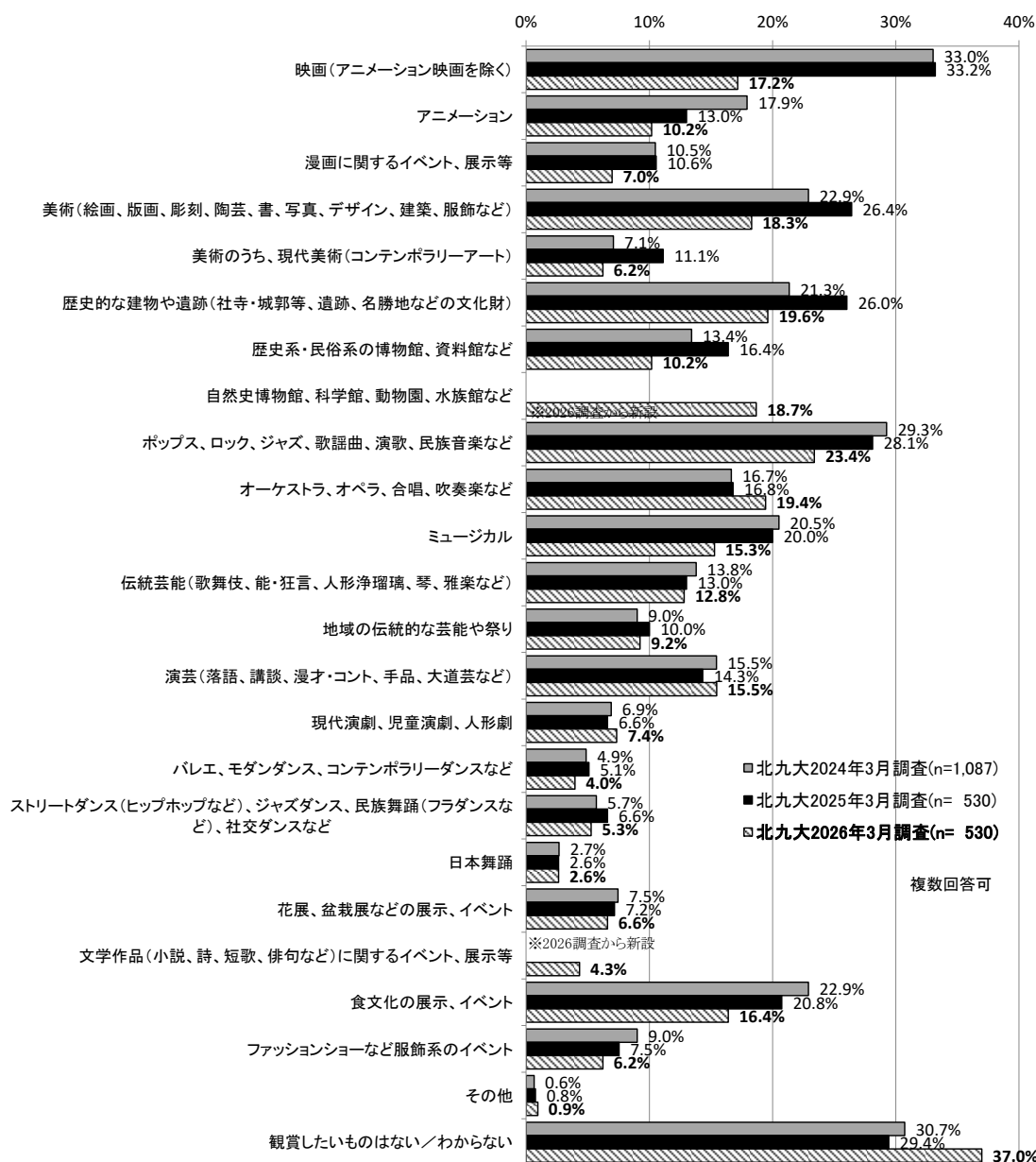


図 26 北九州市内で直接鑑賞できる機会が増えてほしい文化芸術分野（経年比較）

また、この設問の 2026 年 3 月調査の結果について、世代別に上位 5 位までを整理した結果を表 6 に示す。70 歳以上を除き、他の世代では「観賞したいものはない／わからない」が 1 位となっている。映画は 30 歳代以下の若い世代で 2 位となっており、40～60 歳代では「ポップス、ロック、ジャズ、歌謡曲、演歌、民族音楽など」が 2 位となっている。70 歳代以上が 1 位が「歴史的な建物や遺跡（社寺・城郭等、遺跡、名勝地などの文化財）」となっている等、世代別に若干の傾向の違いがみられる。

表 6 世代別にみた、北九州市内で直接鑑賞できる機会が増えてほしい文化芸術分野
(2026年3月調査)

	18-29歳 (n=12)	30-39歳 (n=30)	40-49歳 (n=89)	50-59歳 (n=144)	60-69歳 (n=143)	70歳以上 (n=112)
1	鑑賞したいものはない／わからない 50.0%	鑑賞したいものはない／わからない 40.0%	鑑賞したいものはない／わからない 44.9%	鑑賞したいものはない／わからない 40.3%	鑑賞したいものはない／わからない 30.8%	歴史的な建物や遺跡(社寺・城郭等、遺跡、名勝地などの文化財) 34.8%
2	映画(アニメーション映画を除く) 33.3%	映画(アニメーション映画を除く) 33.3%	ポップス、ロック、ジャズ、歌謡曲、演歌、民族音楽など 21.3%	ポップス、ロック、ジャズ、歌謡曲、演歌、民族音楽など 28.5%	ポップス、ロック、ジャズ、歌謡曲、演歌、民族音楽など 27.3%	鑑賞したいものはない／わからない 32.1%
3	アニメーション 33.3%	アニメーション 30.0%	食文化の展示、イベント 18.0%	自然史博物館、科学館、動物園、水族館など 21.5%	美術(絵画、版画、彫刻、陶芸、書、写真、デザイン、建築、服飾など) 21.7%	オーケストラ、オペラ、合唱、吹奏楽など 26.8%
4	ポップス、ロック、ジャズ、歌謡曲、演歌、民族音楽など 16.7%	自然史博物館、科学館、動物園、水族館など 23.3%	自然史博物館、科学館、動物園、水族館など 15.7%	映画(アニメーション映画を除く) 20.1%	オーケストラ、オペラ、合唱、吹奏楽など 21.0%	美術(絵画、版画、彫刻、陶芸、書、写真、デザイン、建築、服飾など) 24.1%
5	ほか6分野	漫画に関するイベント、展示等 23.3%	映画(アニメーション映画を除く) 15.7%	演芸(落語、講談、漫才・コントなど) 17.4%	歴史的な建物や遺跡(社寺・城郭等、遺跡、名勝地などの文化財) 18.9%	自然史博物館、科学館、動物園、水族館など 21.4%

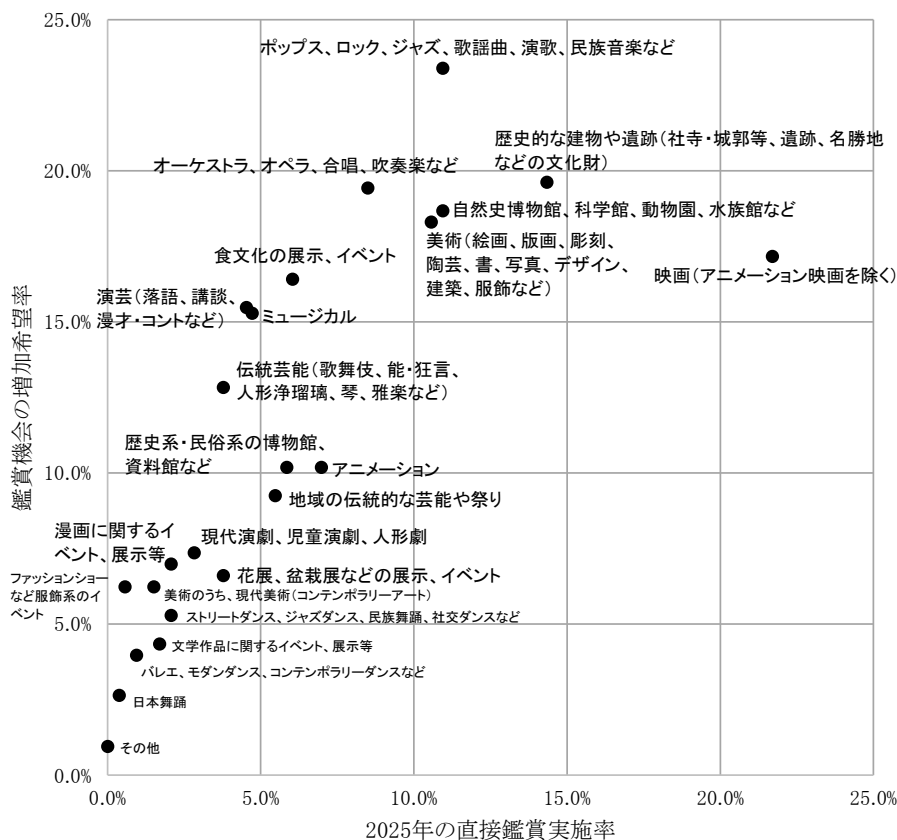


図 27 直接鑑賞実施率と北九州市内での鑑賞機会増加希望率 (2026年3月調査)

一方、2026年3月調査の結果について、文化芸術分野ごとの直接鑑賞実施率と北九州市内での鑑賞機会増加希望率を散布図として表したものを図27に示す。23分野のうち、「映画」については他の分野から突出して直接鑑賞実施率が高く、機会増加希望率も比較的高い特徴が見られる。「歴史的な建物や遺跡」、「自然史博物館、科学館、動物園、水族館など」、「ポップス、ロック、ジャズ、歌謡曲、演歌、民族音楽など」、「美術」、「オーケストラ、オペラ、合唱、吹奏楽など」は、直接鑑賞実施率が比較的高く、かつ機会増加希望率が特に高いグループと位置付けられよう。「映画」以外はいずれも直接鑑賞実施率を機会増加希望率が上回っている状況にあり、北九州市内において文化芸術の多様な分野への鑑賞ニーズがあることがうかがわれる。

⑥ 文化芸術関連イベントを市役所が関わる形で開催する重要性

回答者全体に「北九州市の活性化に向けて、文化芸術関連イベントを市役所が関わる形で開催することは重要であると考えますか。最もあてはまるものを一つ選んでください」と尋ねた結果を図28に示す。

2024年調査、2025年調査と2026年3月調査がほぼ一致した結果となっており、「とても重要である」が約15%程度、「ある程度重要である」が約40~45%となっており、多くの市民が重要性を認めており、否定的な回答は約8%程度にとどまっている。近年は地域活性化を指向した文化芸術関連のイベントに対して行政が支援することについて、市民からの安定した理解が得られていると言える。

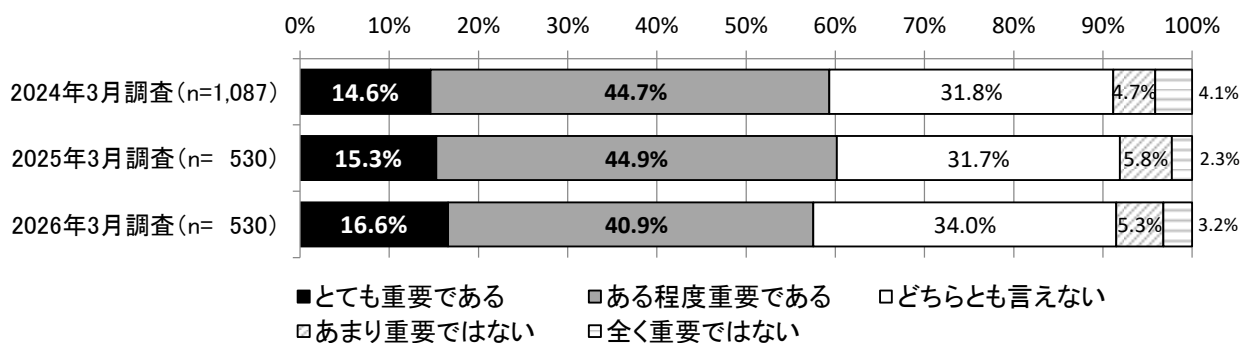


図28 文化芸術関連イベントを市役所が関わる形で開催する重要性（経年比較）

4. おわりに

本稿では、南（2025）等と同様、北九州市民を対象に毎年2~3月に定点観測的に行っているスポーツや文化芸術に関する意識調査を2026年3月に実施した結果を整理した。

スポーツ関連では、ギラヴァンツ北九州を応援すると回答した市民が過年度調査と比較し最も低い水準に下がっていると同時に、今後、ギラヴァンツ北九州の試合を「ぜひスタジアムで観戦したい」とする回答者が2010年2月の調査開始以降で最も少ない比率とな

っている点の特筆できる。ホームタウンの市民からの関心低下はJリーグクラブとして極めて重大な問題であり、クラブや地域はこれまで以上に危機感を持ちチーム成績向上に努めるとともに、既存のサポーターではない「一般的な市民」に親しまれるための地域貢献活動や広報活動に一層効果的に取り組むことが求められる。

文化芸術関連では、全国を対象とした文化庁調査の国民意識と比較して北九州市の文化的な環境に対する市民満足度が高いことが改めて確認できたものの、文化芸術鑑賞率や、文化芸術環境に対する肯定的回答が2025年調査より減少している点が懸念点として挙げられる。2025年からスタートしている北九州市文化芸術推進プランに基づく施策を展開し、現在の北九州市の文化的な環境の維持向上に取り組むことが求められる。

なお、本文中においても数か所で記載したが、スポーツ、文化芸術に関する地域課題の解決に向けてより一層効果的な考察を行うため、これまで15年以上継続してきている本研究関連の一連の市民意識調査について、設問や分析方法の見直し等を改めて検討する必要があると感じられる。2026年度において、こうした点についても検討していくことを今後の研究課題としたい。いずれにせよ、今後も北九州市の文化芸術・スポーツイベント等に対する市民意識を継続的に把握し、文化芸術やスポーツが地域社会・地域経済の活性化に資するための検討材料を得ていくことに取り組んでいきたい。

注

- 1) 調査の実施に際しては、調査名によって回答者にバイアスが生じないように、「生活に関するアンケート」といったように、直接的にスポーツやギラヴァンツ北九州、あるいは文化芸術等の名称を表に出さないタイトルでモニターに回答依頼を行っている。
- 2) 「大変満足」5点、「やや満足」4点、「どちらとも言えない」3点、「やや不満」2点、「大変不満」1点として、各評価の回答人数を乗じた上で平均点を算出した。
- 3) 2026年3月調査においては、2024年調査、2025年調査の選択肢と一部選択肢の表現の修正を行ったほか、「自然史博物館、科学館、動物園、水族館など」および「文学作品（小説、詩、短歌、俳句など）に関するイベント、展示等」の2選択肢を追加した。

参考文献

- 1) 南博、神山和久、片岡寛之（2010）「Jリーグ加盟当初のギラヴァンツ北九州に関する市民意識分析」、北九州市立大学都市政策研究所『スポーツを通じた地域活性化に関する基礎的研究』、pp.37-48
- 2) 南博（2012）「Jリーグ加盟3年目を迎えるギラヴァンツ北九州に関する市民意識分析」、北九州市立大学都市政策研究所『2011年度におけるギラヴァンツ北九州に関する調査研究』、pp. 11-21
- 3) 南博（2013）「2013年シーズン当初のギラヴァンツ北九州に対する市民意識調査速報」北

九州市立大学都市政策研究所『北九州における「集客」の現状と課題～ギラヴァンツ北九州、B-1 グランプリ in 北九州～』、pp.29-38

- 4) 南博（2015）「2015年シーズン開幕直前のギラヴァンツ北九州に対する市民意識」、北九州市立大学都市政策研究所『北九州における集客イベントの効果と展望』、pp.59-67
- 5) 南博（2016）「2016年シーズン開幕直後のギラヴァンツ北九州に対する市民意識」、北九州市立大学都市政策研究所『北九州における集客イベントの効果と展望（2）』、pp.19-28
- 6) 南博（2017）「2017年シーズン開幕直後のギラヴァンツ北九州および北九州スタジアムに対する市民意識調査の集計データ（速報）」 北九州市立大学地域戦略研究所『北九州における集客イベントの効果と展望（3）』、pp.45-59
- 7) 南博（2018）「2018年シーズン開幕直後のギラヴァンツ北九州およびミニワールドスタジアム北九州に対する市民意識調査の集計データ」、北九州市立大学地域戦略研究所『北九州における集客イベントの効果と展望（4）』、pp.23-49
- 8) 南博（2019）「2019年シーズン開幕直前のギラヴァンツ北九州、ミニワールドスタジアム北九州、および北九州市における国際スポーツ大会等に関する市民意識調査の集計データ」 北九州市立大学地域戦略研究所『北九州における集客イベントの効果と展望（5）』、pp.25-60
- 9) 南博（2020）「2020年シーズン開幕直後のギラヴァンツ北九州、ミニワールドスタジアム北九州等に関する市民意識調査の集計データ」、北九州市立大学地域戦略研究所『北九州における集客イベントの効果と展望（6）』、pp.23-40
- 10) 南博（2021）「コロナ禍における北九州市民の“観るスポーツ”への意識～ギラヴァンツ北九州、国際スポーツ大会を中心に」、『北九州市立大学地域戦略研究所年報』 No.1、pp.89-115
- 11) 南博（2022）「コロナ禍 2年目におけるスポーツに対する北九州市民意識の変化」、『北九州市立大学地域戦略研究所年報』 No.2、pp.87-118
- 12) 南博（2023）「ウィズコロナ時代の「みるスポーツ」等に対する北九州市民の行動、意識」、『北九州市立大学地域戦略研究所年報』 No.3、pp.97-128
- 13) 南博（2024）「北九州市の文化芸術・スポーツイベント等に対する市民意識」、『北九州市立大学地域戦略研究所年報』 No.4、pp.101-129
- 14) 南博（2025）「2025年3月時点の北九州市の文化芸術・スポーツに対する市民意識」、『北九州市立大学地域戦略研究所年報』 No.5、pp.99-124
- 15) 文化庁（2023）「文化に関する世論調査報告書（令和4年度調査）」
- 16) 文化庁（2024）「文化に関する世論調査報告書（令和5年度調査）」
- 17) 文化庁（2025）「文化に関する世論調査報告書（令和6年度調査）」
- 18) 北九州市 Web サイト <https://www.city.kitakyushu.lg.jp/>